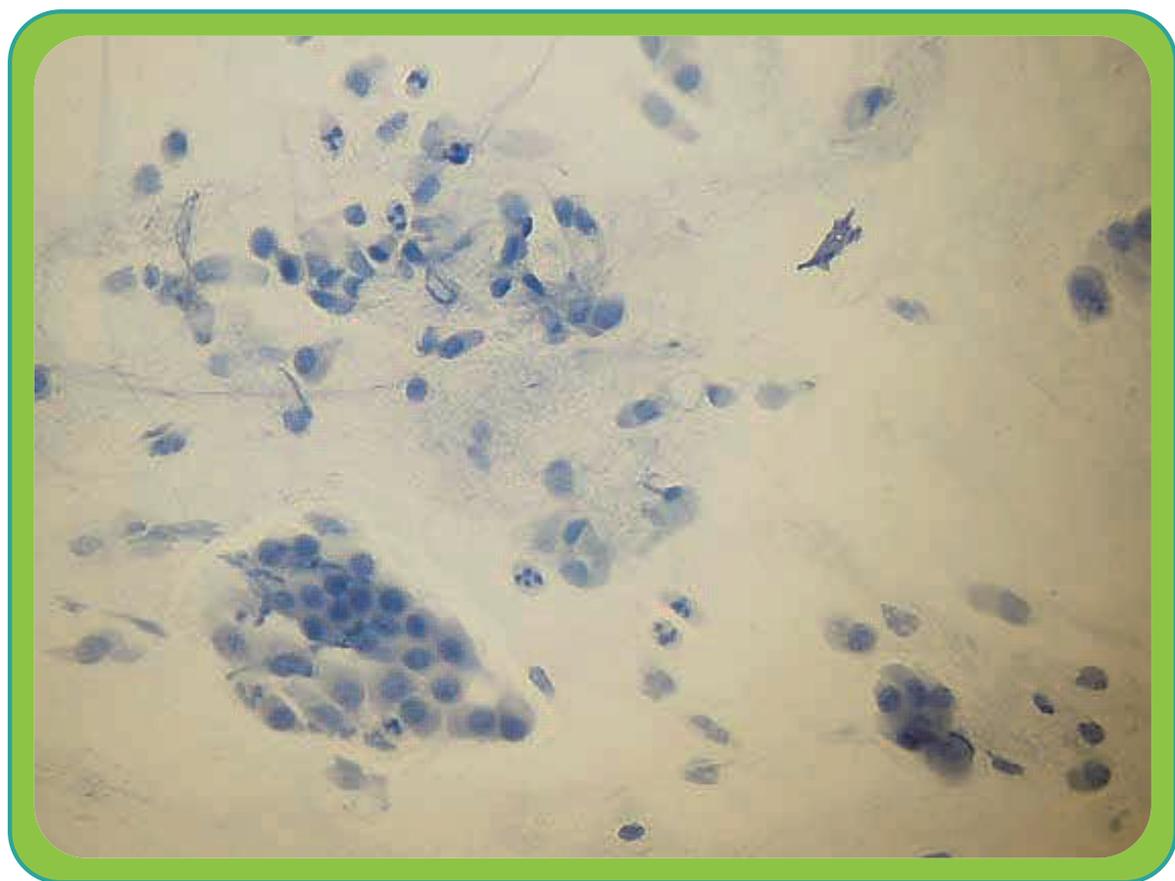


第23号

さくらじま

2009



鹿児島大学大学院
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室

同門会誌

〔表紙写真の説明〕



ヒト鼻粘膜擦過組織片

ヒト鼻腔呼吸部の粘膜上皮は多列線毛円柱上皮で構成されている。

表紙はヒト下鼻甲介鼻粘膜を綿棒で擦過しスライドガラスに塗抹、HE染色した写真である。写真左下にクラスター形成しているものが鼻粘膜上皮細胞で、その周囲には分葉核が特徴的な好中球を認める。(牧瀬高穂)

目

次

巻頭言	1
会長の挨拶	2
“偶然の幸運”で命拾い 大山勝名誉教授	4
I. 教室来訪者	6
II. 教室行事	
1. 共催の講演会	7
2. 第3回日本小児耳鼻咽喉科学会・学術講演会	10
3. 第21回日本口腔・咽頭科学会・学術講演会	14
4. 第11回 耳鼻咽喉科桜島フォーラム	20
5. 「耳の日ならびにアレルギー週間公開講座」	21
6. 2008年水曜セミナー	23
III. 同門会報告	24
IV. 地域医療報告	
1. 巡回診療（県医務課）	27
2. 身体障害者巡回診療	27
3. 学校保健（統計報告）	27
V. 特殊外来通信	
1. アレルギー外来	30
2. 副鼻腔炎外来	30
3. 難聴・耳鳴り外来	31
VI. 病理集計	33
VII. 各省庁諸研究	34
IX. 業 績	
1. 原 著	35
2. 総 説	37
3. その他	39

4. 国内学会発表	39
5. 国際学会発表	49

IX. 医局通信

1. 新入局員紹介	50
2. 医局人事	51
3. 学会報告	
① 第109回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会	52
② 第20回日本アレルギー学会春季臨床大会	52
③ 第32回日本頭頸部癌学会	53
④ 第23回九州連合地方部会・学術講演会	54
⑤ Bacterial Adherence & Biofilm 第22回学術集会	54
⑥ 第38回日本耳鼻咽喉科感染症研究会 第32回日本医用エアロゾル研究会	55
⑦ 第70回耳鼻咽喉科臨床学会学術講演会	55
⑧ 第47回日本鼻科学会総会・学術講演会	56
⑨ 第18回日本耳科学会総会・学術講演会	56
⑩ 第60回気管食道科学会総会ならびに学術講演会	57
⑪ 第58回日本アレルギー学会秋季学術大会	57
⑫ 第19回日本頭頸部外科学会総会・学術講演会	58
⑬ 第27回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会	58
⑭ 15 th World Congress for Bronchoesophagology	59
⑮ The 12 th Japan-Korea Joint Meeting of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery	59
4. 関連病院便り	
① 国立病院機構 鹿児島医療センター便り	60
② 鹿児島市立病院便り	62
③ 藤元早鈴病院便り	63
④ 鹿児島生協病院たより 第四報	64
⑤ 天辰病院便り	65

X. 関連病院	66
---------	----

XI. 海外同門会名簿	69
-------------	----

XII. 自治医大研修生	73
--------------	----

同門会会則	75
-------	----

編集後記	84
------	----

巻 頭 言

黒 野 祐 一

昨年、2008年「今年の漢字」に「変」が選ばれました。米国では、「Yes, we can」, 「Change」と変革を呼びかけたオバマ氏が第44代大統領に就任し、対する我国では政治は変わらず首相のみが次々と変わる「政治の変」、地球温暖化やゲリラ豪雨などの「気候の変」、米リーマン・ブラザーズの経営破綻後、次々と大手企業が倒産した「経済の変」等等、まさしく昨年を象徴する文字であったと実感されます。かつて右肩上がりの時代であれば、「変わる」は常に良くなることを意味していましたが、最近は「変わる」と聞くとは何かが悪くなるような予感がして反射的に身構えるようになってきました。その一方で「変わらない」のも問題で、地方大学の深刻な医師不足も未だその減少傾向に何の変化もみられません。それどころか、まだまだ底が見えない状況です。

当教室では、昨年、待望の新人として馬越先生が入局しました。山男というだけあって、タフで粘り強く真面目な青年です。手術に興味があるとのことで、耳鼻咽喉科の初期研修を多くの手術が経験できる関連施設でと思っていましたが、基幹病院の閉院や大学病院のマンパワー不足のため、当面大学で研修してもらうことになりました。しかし、彼の今の意欲を衰退させないためにも市立病院や医療センターでの臨時研修制度を活用し、できるだけ多くの手術を経験できるように配慮しました。数少ない耳鼻咽喉科医を、大学ではなく鹿児島島の宝として大切に育てて生きたいと考えています。

また、昨年そして今年のポリクリやクリニカル・クラークシップでは耳鼻咽喉科・頭頸部外科に興味を示す学生が少しずつ増加しているような印象があります。数年後には教室員が増えるかもしれないと、とらぬ狸のではありませんが、ひそかに期待しているところです。そして、その日が来るまで、献身的に大学や関連施設での診療や研究に励んでくれる教室員とともに頑張りたいと思っています。

この少数精鋭部隊に助けられ、また、地方部会、同門会各位のご協力によって、昨年は日本小児耳鼻咽喉科学会と日本口腔咽頭科学会の2つの全国学会を鹿児島で開催させていただきました。「Dr.コトー」や「篤姫」がタイムリーなキーワードとして効果をもたらしたこともあって、多くの参加者を得て成功裏に終えることができました。さらに、昨年は私が日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会理事長ならびに日本エアロゾル研究会運営委員長を拝命し、これも偏に教室員によるこれまでの研究業績が評価されたこと、そして皆様のご支援による賜物と心より感謝申し上げます。

多難な時期はまだまだ続きそうですが、高い志を持って、今年の干支にならって牛歩であっても前進していく覚悟です。倍增のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

平成21年を迎えて思う事

山 本 誠

米国発の金融危機が、瞬く間に世界同時不況になりました。当初、日本は比較的軽度と思われていましたが、今年になって実際は日本が米国や EU よりも打撃が大きい事が明らかになりつつあります。さらに政治のもたつきが追い討ちをかけています。与・野党が一致して必要な政策を可能な限り早急に打つべき時に足の引っ張り合いをしているようではたとえ民主党が政権を取ったとしても50歩、100歩の感が否めません。こういう状況下でも、医療に対して影響は比較的少なそうに見えますが、内需の冷え込み、派遣社員の解雇、さらに正社員のリストラ、中小企業の倒産と負の連鎖が続けば医療といえども生死にかかわるもの以外は政策的だけでなく、個人的にも抑制がかかるのは明白です。こういう時に我々医師としては何をなすべきか、深慮する必要があります。最近では医療に対するマスコミや国民のパッシングは減ってきてはいるものの、医療に対する信頼が回復した訳ではなくさしあたり医師と患者さんとの信頼関係の再構築が喫緊の課題だと思われます。私も開業して22年もなり、その間患者さんとの信頼関係は培ってきたつもりですが、年々患者数、総収入とも減少しており、今年は特に強い危機感を持っています。

一方今年の鹿児島県の耳鼻医療の現状をみますと、昨年は県立大島病院と県立鹿屋健康プラザで耳鼻咽喉科は休止状態でしたが、鹿屋健康プラザが2月から再開され、県立大島病院も三月下旬から週3日外来のみ再開される事になりましたので少しほっとしておりますが、ここしばらく医局員の増加は期待薄です。今給黎病院も8月からは昇先生お一人になられそうだし、鹿児島市立病院でも笠野先生が静養中ですので、鹿大病院と鹿児島医療センターへのしわ寄せは益々強くなり、鹿児島県の救急患者や重症患者に対する耳鼻科医療は一段と厳しくなっております。鹿児島市耳鼻科医会も本年度から翌日が診療日の休日の深夜オンコールを始めましたし、種子島の学校健診は2年前から、さらに十島村の耳鼻科診療も県から要請がきております。医局員が少なくなり、診療や研究・検診が重荷になってきている中、少しでも我々開業医が協力できるところは協力していきたいと思っております。

さて、難しい話はこの辺にして、今年の同門会には沢山の先生方のご参加をいただき、本当にありがとうございました。久しぶりに懐かしい顔も拝見でき、楽しい一夜を送る事が出来ました。最近インターネットや携帯電話での会話が增え、それなりに便利ではありますが、直に顔と顔を合わせて会話するの必要を実感しました。人間はお互いの表情を見ながら肉声を聞かねば本当の会話にはならないと思います。その為には皆が一



同に会える会を増やすことが大事です。以前より久保先生を囲む会と大山先生を囲む会が内々で行われていましたが、今年から同門会主催で大山先生を囲む会が行われたらと思っています。ただ一昨年の「大山先生の喜寿を祝う会」のような大掛かりなものとはしないで、お話は大山先生だけで他の挨拶なしの和気藹々の会ができたらと思っていますので、こういう世相だからこそ多くの先生方に奮って参加していただきたいと思います。さらに、お互いの親睦の為に同門会費を有意義に使いたいと思いますので、医局の先生方との飲みコミュニケーションやゴルフ・テニスなどのスポーツなど何かいいアイデアがあればご提案をお願いします。

“偶然の幸運”で命拾い 一人、時、地の縁に助けられて

鹿大名誉教授

大山 勝（医師会病院名誉院長）

昨年10月末、奄美市で大高2回卒、安陵モンキー会の喜寿を祝っての全国同窓会が開かれた。また、今回は、恩師大野隼夫先生の米寿の祝いも兼ねていたので、夫婦で参加するものが多く、総勢80余名を数えた。会の始めには、小生が“健康長寿をめざして、笑い泣きで若返り”と題して、最近のアンチエイジング（抗加齢）医学の進歩と現況を講演した。老化遺伝子の問題、老化因子や若返りへの心の持ち方さらには笑い泣きが脳や体の健康に役立つことなどについて、40分程、私見を交えて話した。ところが、その舌の根も乾かない11月初旬の連休に、自らが心臓発作に見舞われて面目丸つぶれであった。幸い、症状が一時緩快したので、翌々日には恒例となっている大島郡医師会病院へ診療に出掛けた。ところが、午後の診療に入る頃から、熱感と脱力感を覚え、外来診療がスムーズに運ばない気がしていた。外来のI看護師長の強い奨めで診療を中断し、心電図検査後、S院長の診察を乞うた。診断は心筋梗塞であった。直ちに県立大島病院に連絡、救急車で搬送されることになった。I看護師長の眼力は、生氣のない小生の表情や挙動を見逃すことはなかった。そのお蔭で診断の機会を早め大事に至らずに済んだ。この心臓発作が旅の途上で起こらなかったことも大いに幸いした。

将に“偶然の幸運”に恵まれた出来事だったといえる。一方、県立大島病院には、昨年、最新鋭の心血管X線撮影装置が導入されたばかりであり、また当日は高度の心臓カテーテル検査治療手技に秀でたH医師とO医師の2人が揃って在勤中だったので、的確、素早い検査治療を受けることができた。離島に多いヘリコプターでの本土への緊急搬送も行われる必要がなかった。これら間違いなく“偶然の幸運”にあずかったといえる。過去、重篤な病気で入院加療したのは、55年前、右上顎腫瘍で手術した時を除いて他にない。意識下のスパゲッティー人間もどきの体験も始めてであった。しかし、医師、看護師その他関係者の献身的で優れた手当のお陰で、症状は日を追って改善、チューブ類も次々と抜去されて、6日目には四肢の束縛が解かれた。ベッド上で自由に寝返り打てる喜びは、筆舌に尽し難いものだった。そして、入院中、O院長、S副院長の回診を始め郡医師会のH会長始め諸先生方、医師会病院S院長、虹の丘K施設長他医師、看護師、事務職員など関係各位と同窓の有志大兄達の見舞と激励に心から感謝している。また、同時期、腰椎骨折で寝込んでいた家内からの電話での気遣いの肉声、自分の代わりに東京から義妹を呼び寄せ、娘達家族と共に交代で奄美まで介添に寄こす等、優しい気配り

は、病み上がりの心の琴線にひどく触れるものがあり嬉しかった。病室は、南国の色彩が美しい見舞の花々で溢れて、心地良い香りと相まって五感に訴えるところ大で、病状の推移にも大きく貢献したものと感謝している。病状が落ち着いた15日目には、鹿児島医療センターに転院できて、ここで最新の医療機械による精密検査を受けた後、心臓リハビリテーションを受けることになった。僅か2週間余りの臥床により信じられない位に脚力が弱り、自転車エルゴメーターを踏張る力はもとより早足歩行も覚つかない状態に驚いた。人間としての3大特徴の1つ、2足歩行の重要性を身をもって再確認する次第だった。リハビリのお陰で、日常生活での心臓負担に問題なく、体力的にも自信のついた12月初旬、家族に迎えられて無事退院できた。担当のN医師、心リハ専門のT医師、看護師その他関係者ならびに見舞に来られた耳鼻咽喉科教室および同門会の諸先生に心から謝意を表したい。

さて、英国の作家ウォルポールは、偶然の幸運に出会う能力を“セレンディピティー”と名づけた。それは、人との出会いは勿論、人生を変える出来事や仕事上のチャンスに巡り合うこと等が挙げられる。この場合の幸運に出会えるかどうかは、全くの偶然であり、その人の能力とは無関係であり、人為的にはどうにもならない問題なのである。過去、ノーベル賞受賞者の中にもセレンディピティーに恵まれた人は、決して少なくない。今回の離島診療中、予期しない大病をめぐる一連の事柄の中には、目に見えない力によるセレンディピティーが係わっていたように思う。人の縁、時の縁、地の縁の全てに恵まれた夢のような実体験だった。今年のNHK大河ドラマ“天地人”（天の時、地の利、人の和を意味する上杉謙信の理念）を医療面で一足先に体験されてもらったようなものだ。今春は、私共にとっては金婚式の節目の年である。お互いにハートを労りハートを繋ぎ、病んだ腰を支え合いながら背筋を伸ばして、モットーとしている“健やか長寿”を目指して努力すると共に、離島医療への更なる貢献を夢みて歩んで行きたい。

（県医師会報、平成21年、新春随想欄の掲載文に加筆転載したものである。）

I . 教室来訪者

(平成20年4月～平成21年3月)

7月 島根大学医学部耳鼻咽喉科教授 川内 秀之

7月 九州大学大学院医学部耳鼻咽喉科教授 小宗 静男

7月 熊本大学大学院医学部耳鼻咽喉科教授 湯本 英二

1. 共催の講演会

1. 第54回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成20年4月10日
 特別講演：「口腔粘膜病変のみかた」
 旭川医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 教授 原淵 保明 先生
 一般演題：「緊急気管切開を要したクインケ浮腫症例」
 谷本 洋一郎 先生（あまたつクリニック）
 「頬骨・上顎骨骨折後に頬部膿瘍をきたした1症例」
 吉福 孝介 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

2. 第55回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成20年5月22日
 特別講演：「耳鳴診療の新しい展開」
 慶應義塾大学 耳鼻咽喉科 教授 小川 郁 先生
 一般演題：「中咽頭側壁癌に対する下顎離断の適応について」
 大堀 純一郎 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
 「当科難聴耳鳴り外来におけるTRT療法の現状」
 宮之原 郁代 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
 「上顎洞真菌症に対する内視鏡下手術の工夫点」
 松根 彰志 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

3. 第56回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成20年7月10日
 特別講演：「小児急性中耳炎をめぐって」
 かみで耳鼻咽喉科クリニック 上出 洋介 先生
 一般演題：「当科における小児睡眠時無呼吸症候群の検討」
 田中 紀充 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
 「咽後膿瘍により心肺停止をきたした1症例」
 吉福 孝介 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

4. 第33回日耳鼻鹿児島県地方部会総会ならびに学術講演会 平成20年7月19日
 特別講演：「中耳疾患治療の問題点—当科における工夫—」
 弘前大学大学院医学研究科耳鼻咽喉科学講座 教授 新川 秀一 先生

一般演題：「確定診断に苦慮した頭部原発悪性リンパ腫の1例」

馬越 瑞夫 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

「喉頭血管腫の1症例」

吉福 孝介 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

「蝶形骨洞腫瘍と鑑別を要した下垂体腺腫の1症例」

西元 謙吾 先生（鹿児島医療センター 耳鼻咽喉科）

「花粉症患者鼻粘膜におけるHIレセプターの発現」

牧瀬 高穂 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

「小児アレルギー性鼻炎に対するオリゴ糖投与の効果についての検討」

内菌 明裕 先生（せんだい耳鼻咽喉科）

5. 第57回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成20年8月28日

特別講演：「黄砂とアレルギー」

大分県立看護科学大学 人間科学講座生体反応学研究室

教授 市瀬 孝道 先生

一般演題：「心因性難聴の診断および治療における問題点」

宮下 圭一 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

「外耳瘻の外科的治療の適応と工夫」

大堀 純一郎 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

6. 第58回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成20年9月18日

特別講演：「感音難聴の成因について」

川崎医科大学 耳鼻咽喉科 教授 原田 保 先生

一般演題：「難聴の遺伝子診断とその臨床応用—当科における症例を中心に—」

宮之原 郁代 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

「当科における好酸球性副鼻腔炎症例

—検査成績、診断、治療を中心に—」

松根 彰志 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

7. 第59回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成20年10月23日

特別講演：「内科医からみた慢性外咳嗽診療」

金沢大学医学附属病院 呼吸器内科 科長 藤村 政樹 先生

一般演題：「当科で経験した鼻腔血管腫の2症例」

吉福 孝介 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

「慢性副鼻腔炎を対象とした嗅覚検査の検討」

川島 雅樹 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

8. 第60回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成21年2月26日

特別講演：「抗ヒスタミン薬」

大阪歯科大学 耳鼻咽喉科学講座 准教授 久保 伸夫 先生

一般演題：「花粉症初期療法とヒスタミン受容体」

牧瀬 高穂 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

「鼻中隔膿瘍の発症と治療」

吉福 孝介 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

9. 第61回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成21年3月12日

特別講演：「味覚障害と口腔乾燥症の診断と治療」

兵庫医科大学大学院 耳鼻咽喉科 教授 阪上 雅史 先生

一般演題：「がま腫に対するピシバニール局注療法と外科的治療について」

宮下 圭一 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

「耳介血腫の病態と治療について」

吉福 孝介 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

2. 第3回日本小児耳鼻咽喉科学会・学術講演会

会長 黒野祐一

平成20年6月21日・22日の2日間、城山観光ホテルにて「第3回日本小児耳鼻咽喉科学会」を主催いたしました。皆様のご支援とご厚情によりまして盛会のうちに幕を閉じました。以下に開催報告をさせていただきます。

(文責, 小児耳鼻咽喉科学会年次幹事 福岩達哉)

日本小児耳鼻咽喉科学会は小児耳鼻咽喉科研究会として長い歴史を経た後、平成18年に第1回が奈良市で開催された。翌年には第2回が仙台市で開催され、本年度は第3回が6月21日(土)、22日(日)の2日間、鹿児島市内の城山観光ホテルにて開催された。梅雨時の開催であり、また鹿児島は台風到来の時期ということもあり天候が懸念されたが、幸い2日間ともよい天気恵まれた。南国・鹿児島ならではの蒸し暑い気候であったものの、学会では会期中のドレスコードをクール・ビズとして「軽装でお越し頂き熱き討論をお願い致します」と告知していたこともあり、学会参加者は快適にお過ごしいただけたようであった。

本学会では、参加者が全ての演題を聴講し討論できるように全ての口演を1会場で行った。2日間のうち特別講演が2題、教育講演が1題、シンポジウムが1題、ビデオ研修セミナーが3題、ランチョンセミナーが2題組み込まれ、これらが他の一般演題・ポスターセッションと同時進行することなく行われた。限られた開催時間の中で、各講演になるべくたくさんの討論時間を設けつつも多くの一般演題を採択させるために、ポスターセッションを設けて多くの討論を行って頂いた。

鹿児島の特徴を生かした思い出に残る学会にしたいという考えから、まず特別講演Ⅰでは、あの「Dr.コトー診療所」のモデルとなった瀬戸上健二郎先生(下甕村手打診療所)が「ドラマより面白い離島医療」というタイトルで御講演された。鹿児島県は28の有人離島を含む南北600kmに分布する地域で構成され、離島在住人口は約19万人であることから離島診療は大きな社会問題である。瀬戸上先生の30年に及ぶ離島診療の歴史を拝聴し会員一同、深く感銘を受けた。

特別講演Ⅱでは河野嘉文先生(鹿児島大・小児科)に「鹿児島県の小児医療事情－小児がん治療の見地から－」というタイトルで、地域・僻地での小児医療の実態や問題を御講演頂いた。鹿児島県における離島地域の多くは合計特殊出生率が2.0以上であり、約3万人の子供が居住し小児医療の需要は高い。にもかかわらず小児科専門医は県全体で人口10万人当たり59人と全国平均を大幅に下回り全国第45位であるという問題を提示され、鹿児島の離島・僻地での小児医療の困難さを再認識させられた。しかし、こ

れら諸問題を改善しようと取り組んでおられることを拝聴し、特に家族の負担を軽減させる目的で立ち上げた特定非営利活動法人（NPO 法人）子供医療ネットワークの活動内容を御し頂き、同じく小児医療に従事するものとして示唆に富む内容であった。

教育講演では岡本美孝先生（千葉大）に「小児アレルギー性鼻炎の実態と治療法」というタイトルで御講演頂いた。小児アレルギー性鼻炎患者の増加が指摘されているにもかかわらず、症状の評価が容易ではないことなどを理由にその実態が不明であることを呈示され、アレルギー検査の重要性、治療効果判定にむけて鼻内所見の重要性などが指摘された。また小児アレルギー性鼻炎の早期診断、早期介入治療による発症の予防、重症化の阻止への取り組みなどを解説していただいた。

シンポジウムでは本学会の主旨を踏まえて教育的な内容になるようにと、小宗静男先生（九州大）の御司会と新進気鋭の演者によって「高度難聴児療育への取り組み」をテーマに討論して頂いた。福島邦博先生（岡山大）は「聴覚スクリーニングの現況と今後の展望」と題して高度難聴児スクリーニングへの取り組みを講演された。杉内智子先生（関東労災病院）は「聴覚言語発達のための支援態勢」と題して母親指導や補聴器フィッティングの重要性とその取り組みについて講演された。井脇貴子先生（愛知淑徳大学医療福祉学部）は「人工内耳埋め込み児の長期観察」と題して人工内耳埋め込み後のリハビリテーションに関して言語聴覚学の立場から講演された。中川尚志先生（福岡大）は「最近の人工内耳と関連機器」と題して、国内で認可されている製品及び海外で使用されている最新機種も含めて各製品の特徴や相違点について講演された。いずれも高度難聴児療育を構成する重要な要素に関する講演であり、白熱した質疑応答が展開された。

小児耳鼻咽喉科での外科治療に注目した企画として「ビデオ研修セミナー How I do it?」が設けられた。成人では一般的な手術ではあるものの小児では比較的稀な「鼻茸切除術」について春名眞一先生（獨協医大）の司会にて、月館利治先生（獨協医大）と吉田尚弘先生（東北公済病院）が講演された。同じく比較的稀な「気管切開術」に関して湯本英二先生（熊本大）の司会にて、仲野敦子先生（千葉県こども病院）と平林秀樹先生（獨協医大）が講演された。また、症例は多いものの施設ごとに手技が異なる「アデノイド切除術」に関しては、林多聞先生（鹿児島大）と守本倫子先生（国立成育医療センター）が講演された。いずれの講演も見事な手術映像を呈示しつつ各々の手技をわかりやすく解説した内容であり、質疑応答も大いに盛り上がり今後の外科治療の発展に大きく寄与するものと考えられた。

ランチオンセミナーⅠでは大矢幸弘先生（国立成育医療センター・アレルギー科）に「小児の診察と行動療法」というタイトルでご講演頂いた。ある行動が生ずる直前には、その行動を生起させる弁別刺激があり、その行動の直後にはそれを強化もしくは弱化する後続刺激があるが、これを三項随伴性といい行動分析（機能分析）の基本となること

を最初に解説頂いた。そして三項随伴性の観点で子供の行動を観察することで、なぜ子供が問題行動を起こしそれが解消されないのかがよくわかることを呈示された。さらに小児診療における留意点などを判りやすく解説頂き、明日からの日常診療ですぐに役立つ重要な講演であった。

ランチョンセミナーⅡでは宮崎総一郎先生（滋賀医大）に「鼻閉と睡眠呼吸障害」というタイトルでご講演いただいた。成人では鼻呼吸が制限されてもある程度口を通じて呼吸することが可能であるが、小児では軟口蓋と喉頭蓋が近接しているため口を通じての呼吸道が狭く、鼻呼吸障害は重大な睡眠呼吸障害をもたらすことを解説された。また、睡眠呼吸障害の患児は口呼吸、苦しそうないびき、無呼吸、睡眠中の陥没呼吸、胸郭変形、夜尿、起床時不機嫌、長時間にわたる昼寝、発育不良、行動異常など多彩な症状を呈することも解説され、今後の日常診療にすぐ役立つ貴重な講演であった。

一般演題は口演32題、ポスター48題の計80題が集まった。耳科、鼻科領域をはじめ咽喉頭、気管・食道領域まで幅広く集まった。本学会の会員の多くは耳鼻咽喉科医であるが、小児科医・コメディカルスタッフの方も口演され、本学会の裾野の広さをうかがわせた。2日間の参加者は400名以上であり、大変な盛況であった。次回は平成21年6月27日（土）、28日（日）の二日間、内藤健晴会長（藤田保健衛生大）のもと名古屋国際会議場（名古屋市）で開催される。





3. 第21回日本口腔・咽頭科学会・学術講演会

第21回日本口腔・咽頭科学会総会および学術講演会（会長 黒野祐一教授）を平成20年9月11日（木）、12日（金）に、鹿児島市の城山観光ホテルにて開催しました。台風シーズンの開催であるため、台風が心配されましたが、幸い学会期間中を通じて天気には恵まれました。

学会が目白押しの期間であり参加者が少ないのではと心配されましたが130題もの一般演題が寄せられ、症例報告を中心に約半数はポスター形式で発表していただきました。

特別講演では、山下敏夫先生（日本口腔咽頭科学会理事長）にご司会いただき、現在放送中のNHK大河ドラマ「篤姫」で時代考証を担当しておられる、地元の原口 泉先生（鹿児島大学法文学部 教授）に、「篤姫の生き方—私こと一命にかけ—」というテーマで講演していただきました。旧薩摩藩の地元色を大いに出していただき、篤姫の生き様を熱くそして感動的に語っていただきました。とてもタイムリーな企画でなかなか好評だったようです。

手術手技セミナーでは、岡本美孝先生（千葉大学耳鼻咽喉科 教授）、長谷川泰久先生（愛知がんセンター 部長）にご司会いただき「中咽頭側壁悪性腫瘍の手術適応とその術式」というテーマで、横山純吉先生（栃木県立がんセンター）、茶園英明先生（千葉大学、耳鼻咽喉科）、花井信広先生（愛知がんセンター）にご登壇いただき、実際の手術のビデオも交えながら、実地臨床に基づいた中咽頭悪性腫瘍の具体的な取り扱いについて問題点の整理や提言をしていただきました。

シンポジウムでは、まず川内秀之先生（島根大学耳鼻咽喉科 教授）と増山敬祐先生（山梨大学耳鼻咽喉科 教授）にご司会いただき、「口腔・咽頭—免疫療法の新たなルートとしての有用性とメカニズム—」というテーマで、アレルギー性鼻炎の経口減感作療法などとも関連して、粘膜免疫の観点から基礎医学の切り口で重要な問題、最新の知見を発表していただきました。韓国からお迎えしたMi-Na Kweon先生（韓国 ソウル大学 教授）の基調講演的なお話をはじめ、田中紀充先生（鹿児島大学）、合田 薫先生（島根大学）、松岡伴和先生（山梨大学）、湯田厚司先生（三重大学）にご講演いただきました。また、もうひとつのシンポジウムである「扁桃シンポジウム」では、山中 昇先生（和歌山県立医大耳鼻咽喉科 教授）、原淵保明先生（旭川医科大耳鼻咽喉科 教授）のご司会で、「扁桃病巣皮膚疾患に対する扁桃摘出術の効果と限界」というテーマで、皮膚科の先生方にも演者としてご登壇いただき、特に掌蹠膿疱症における扁桃摘出術の有効性を中心に、耳鼻咽喉科と皮膚科という複眼的視点からご講演いただきました。皮膚科からは、山北高志先生（藤田保健衛生大学）、小林里実先生（聖母病院）、耳鼻咽喉科からは藤原啓次先生（和歌山県立医大）、高原 幹先生（旭川医科大）の各先生方

にご登壇いただきました。

パネルディスカッションでは、吉原俊雄先生（東京女子医大耳鼻咽喉科 教授）、友田幸一先生（関西医科大耳鼻咽喉科 教授）にご司会いただき、耳下腺腫瘍の診断—現行の検証と新たな提言—とのテーマで、診断学に重点を置き、臨床病理学的視点のお話もとりいれつつ、また保険診療の観点にも留意した極めて実地臨床的なパネルディスカッションを行うことができました。まさに「明日からの臨床に役立つ」ものだったと思います。加えて耳下腺腫瘍の病理診断の難しさを認識させられました。病理医の立場としては、森永正二郎先生（北里研究所病院）にご講演いただき、山村幸江先生（東京女子医大）、古川まどか先生（神奈川県立がんセンター）、大堀純一郎先生（鹿児島大学）の各先生方には、それぞれR I、超音波診断と針生検、C T&M R Iについてご講演いただきました。

ランチオンセミナーでは、現在、口腔咽頭領域で耳鼻咽喉科医として、是非とも知っておきたいホットなテーマを取り扱うことができました。味覚障害の「手引き」と臨床の問題について、愛場庸雅先生（大阪市立総合医療センター 部長）と、池田 稔先生（日本大学耳鼻咽喉科 教授）の両先生に、阪上雅史先生（兵庫医大耳鼻咽喉科 教授）にご司会いただきながらご講演いただきました。また、兵頭政光先生（高知医大耳鼻咽喉科 教授）には、嚥下の問題を検査の観点から、湯本英二先生（熊本大学耳鼻咽喉科教授）のご司会でお話いただきました。最近話題の睡眠時無呼吸症候群は、2つのセミナーを準備しました。1つは、耳鼻咽喉科の観点から、千葉伸太郎先生（太田総合病院 部長）に、西村忠郎先生（藤田保健衛生大学 教授）ご司会のもとお話いただき、また、もう1つはメタボリック症候群との関係から、内科の成井浩司先生（虎ノ門病院 部長）に、内藤健晴先生（藤田保健衛生大学耳鼻咽喉科 教授）のご司会でご登壇いただきました。

以上のように内容的も盛りだくさんで、学術的に充実した内容の学会を行うことができました。さらに、懇親会では屋外の庭も開放し、地ビールコーナーも設けつつ、鹿児島の食材をふんだんに用いた食事や、地元の有名な焼酎なども楽しんでいただくことができました。懇親、懇談の場を大いに盛り上げることができ、とても楽しく思い出深い学会となりました。天気良かったせいもあり、会場の城山から桜島、錦江湾をきれいに見渡すことができました。参加者の中には、鹿児島市内にある磯庭園や尚古集成館、黎明館など島津家や幕末から明治維新にまつわる数々の観光スポットをご覧になられた方々もおられたようだ。

総数400名近くの参加登録をいただき、さらには、大変ご多忙のところ市川銀一郎日本耳鼻咽喉科学会理事長にご臨席いただく中で、本学会を成功裏に終えることができ、山下敏夫理事長はじめ学会関係各位、鹿児島の同門会や地方部会の先生方等のご援助に

心から感謝申し上げます。

第22回口腔・咽頭科学会は、山中 昇会長のもと平成21年9月10日（木）、11日（金）に和歌山市で開催される予定です。

（文責、口腔咽頭科学会 年次幹事 松根彰志）



学会受付



手術手技セミナー



手術手技セミナー



シンポジウム



シンポジウム



扁桃シンポジウム



扁桃シンポジウム



パネルディスカッション



パネルディスカッション



ランチョンセミナー



ランチョンセミナー



機器展示ならびに休憩コーナー



会場風景



特別講演 「篤姫」 原口 泉 先生



ポスターセッション



会員懇親会 山下敏夫理事長挨拶



会員懇親会 黒野祐一会長挨拶



会員懇親会 山本 誠 同門会長 乾杯の発声



会員懇親会風景



会員懇親会風景

第21回 日本口腔・咽頭科学会 総会・学術講演会



平成20年9月12日 於 城山観光ホテル エメラルドホール

主催 スタッフ 集合写真

4. 第11回 耳鼻咽喉科桜島フォーラム

桜島フォーラムは平成20年12月11日に開催された。今回は症例検討として、喉頭に発生した髄外性形質細胞腫，トキソプラズマ症についての検討がなされた。学位取得研究報告として、吉福先生の「IL-4及びTNF- α は好酸球浸潤鼻茸由来線維芽細胞からのeotaxin分泌を増加させる」と題して、好酸球性副鼻腔炎の最近の当科での研究について報告した。また特別講演では、扁桃病巣感染症について黒野教授から病巣感染症について、当科でのこれまでの研究成果と今後の展望について講演いただいた。

好酸球性副鼻腔炎，病巣感染症ともに、我々耳鼻咽喉科医にとって日常良く目にする疾患ながら、いまだにその病態については、謎の多い分野である。

今後の当科でのさらなる研究により、治療に生かされることが期待される。

(文責：大堀純一郎)

日時：平成20年12月11日（木） 19：00～

場所：鹿児島サンロイヤルホテル1階 「エトワールの間」
鹿児島市与次郎1丁目8番10号 TEL:099(253)2020

司会 鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 林 多聞 先生

【症例検討】

「喉頭に発生した髄外性形質細胞腫の一例」

鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 牧瀬高穂 先生

「トキソプラズマ症による頸部リンパ節，上咽頭，喉頭病変が疑われた1症例」

国立病院機構鹿児島医療センター 耳鼻咽喉科 西元謙吾 先生

【学位取得研究報告】

「IL-4およびTNF- α は好酸球浸潤鼻茸由来線維芽細胞からのeotaxin分泌を増加させる」

鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 吉福孝介 先生

【特別講演】

司会 鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 准教授 松根彰志 先生

『扁桃病巣感染症の基礎と臨床』

鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 教授 黒野祐一 先生

5. 「耳の日ならびにアレルギー週間公開講座」

日時：平成21年3月1日（日）13時30分～14時45分

場所：鹿児島県医師会館

本年も昨年に続き、耳の日市民公開講座とアレルギー週間公開講座を同時開催致しました。（それぞれ第54回耳の日市民公開講座、第15回アレルギー週間公開講座となります。）とくに耳の日市民公開講座については、2005年に開催した50周年記念公開講座以降、毎年定例で開催し、今年5回目を迎えることができました。プログラムは以下の通り、第一部に難聴、耳鳴り、補聴器の選び方などについて、第二部ににのいの障害や花粉症など鼻の病気についての講演と2部構成で行いました。また、高齢者や難聴の方の参加を見込み、（中）日本補聴器販売店協会のご協力で、会場には赤外線補聴システムを準備しました。

内容)

第一部 「難聴・耳鳴りと補聴器」

- | | |
|----------------------------|---------|
| 1. 聞こえのしくみと難聴・耳鳴り | 宮之原郁代 |
| 2. 補聴器の選びかたと使い方
—質問タイム— | 大堀純一郎先生 |

第二部 「気になる鼻の病気—にのいの障害と花粉症—」

- | | |
|------------------------------|--------|
| 1. 嗅覚障害と鼻の病気 | 吉福孝介先生 |
| 2. 花粉症の予防から最新治療まで
—質問タイム— | 黒野祐一教授 |

アンケート結果)

今回の企画についての評価目的にアンケートを行いましたので結果をご報告いたします。参加人数は24名で、アンケート回収率は、96%（23名）で、うち男性11名、女性11

名（未記入1名）でした。年齢構成は70-80代が半数以上でした。

1) 今回の講座についてどのようにして知りましたか？

新聞	17%
無料生活情報誌	22%
ポスター	9%
テレビ	26%
病院ですすすめられて	7%

2) 講演内容はいかがでしたか？

わかりやすい	70%
ややわかりにくい	22%
むずかしい	0%

3) 講演時間はいかがでしたか？

ちょうどよい	78%
短い	22%
長い	0%

4) 講演日程はいかがでしたか？

土曜日午後がよい	22%
日曜日午後でよい	61%
平日夜がよい	4%
いつでも良い	9%

5) その他

今後取り上げてほしいテーマとして、喘息、めまい、耳鳴り、難聴、鼻づまり、鼻水、口腔、喉頭痛、耳管狭窄症などがありました。また、意見・要望としては、時間をもっと長くしてほしい、などがあげられました。

患者啓蒙活動のひとつとして行なう市民公開講座ですので、広く広報して一般市民の方に、会場に足を運んで頂くことがまず大切かと思えます。今回の市民講座の開催をどのようにして知りましたか？という問いに対して、それぞれわずかな差ですが、テレビ、生活情報誌、新聞の順に多い結果でした。近年、人々のライフスタイルも変化していることから、広報活動も幅広く行う必要性を感じました。今後も社会に広くアピールできるような企画を、耳の日市民公開講座およびアレルギー週間公開講座として開催していきたいと思えます。最後になりましたが、今回ご協力いただきました多くの皆さまにこの場をかりて厚くお礼申し上げます。

(文責：宮之原郁代)

6. 2008年水曜セミナー

アトピー疾患と環境仮説, プロバイオティクス	松根先生
難聴の遺伝子解析と臨床応用 アレルギー性鼻炎の鼻粘膜過敏性における神経系制御システムの役割 内耳病変に対する画像診断 ～その意義と臨床応用～	宮之原先生
両側声帯麻痺	相良先生
Quincke 浮腫 成人咽頭扁桃肥大症	林先生
鼻腔血管腫について 咽後膿瘍について 耳介血腫	吉福先生
聴器癌	大堀先生
小児睡眠時無呼吸診断治療への取り組み	田中先生
眼窩内異物 甲状腺悪性リンパ腫の術前鑑別診断におけるPETの有用性について 篩骨洞癌 耳下部腫瘍・難治性外耳道炎症例	谷本先生
舌下免疫 下咽頭癌 上咽頭癌 メタボリックシンドローム	早水先生
急性中耳炎起因菌の薬剤耐性化 ～治験の結果もあわせて～	原田先生
Phosphorylcholine Suppressed the Allergic Rhinitis Mice 当科における心因性難聴症例の検討	宮下先生
インフルエンザ菌の気道上皮接着と phosphorylcholine の関連性	川畠先生
悪性リンパ腫の1例	馬越先生

平成21年1月17日、鹿児島県医師会館にて「鹿児島大学大学院医歯学総合研究科聴覚頭頸部疾患学同門会ならびに学術講演会」が開催されました。参加者は、同門会会員総数114名中66名で、山本 誠会長の司会で進められました。

昨年は、鹿児島で日本耳鼻咽喉科学会関連の全国学会が2つ（①第3回日本小児耳鼻咽喉科学会総会ならびに学術講演会、平成20年6月21日-22日、城山観光ホテル、②第21回日本口腔・咽頭科学会総会ならびに学術講演会、平成20年9月11-12日（土）城山観光ホテル）開催されましたが、両学会の会長を勤められた黒野祐一先生より、同門会の学会主催時の支援に対する謝辞が述べられました。

昨今の地方および耳鼻咽喉科の医師、特に大学および関連病院での医師不足の深刻な問題に対する危機感も話題としてとりあげられました。大学医局による若手医師獲得の為の活動、（同門会や地方部会の事務も行っている）秘書や検査スタッフの維持といったものに対する同門会の財政的支援などについても話されました。

今回は、同門会役員の改選です。また、次回から参加者には名札をつけていただくよう準備したいと思います。

今回の同門会開催の概要およびタイムテーブルは以下の如くでした。

16時15分～17時	役員会
17時～18時	同門会総会および写真撮影
18時～19時	学術講演会 一般演題
19時～20時	学術講演会 特別講演
20～	新年会もかねた懇親会

学術講演会の内容、演題は以下のごとくでした。

（文責 同門会 事務局 松根彰志）

一般演題

座長 林 多聞（鹿児島大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

1. 最近経験した頸動脈小体腫瘍症例

川島雅樹，他（鹿児島大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

2. 耳下腺筋上皮癌の一例

高木 実，他（鹿児島市立病院 耳鼻いんこう科）

3. スギ花粉症に対するプラニルカストのJRQLQによる治療効果の検討
積山幸祐（鹿児島生協病院 耳鼻咽喉科）

座長 花牟礼 豊（鹿児島市立病院 耳鼻いんこう科）

4. 好酸球性副鼻腔炎における局所好酸球浸潤の機序に関する研究
原田みずえ，他（鹿児島大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

5. 舌深部に発生したのう胞症例
西元謙吾，他（鹿児島医療センター 耳鼻咽喉科）

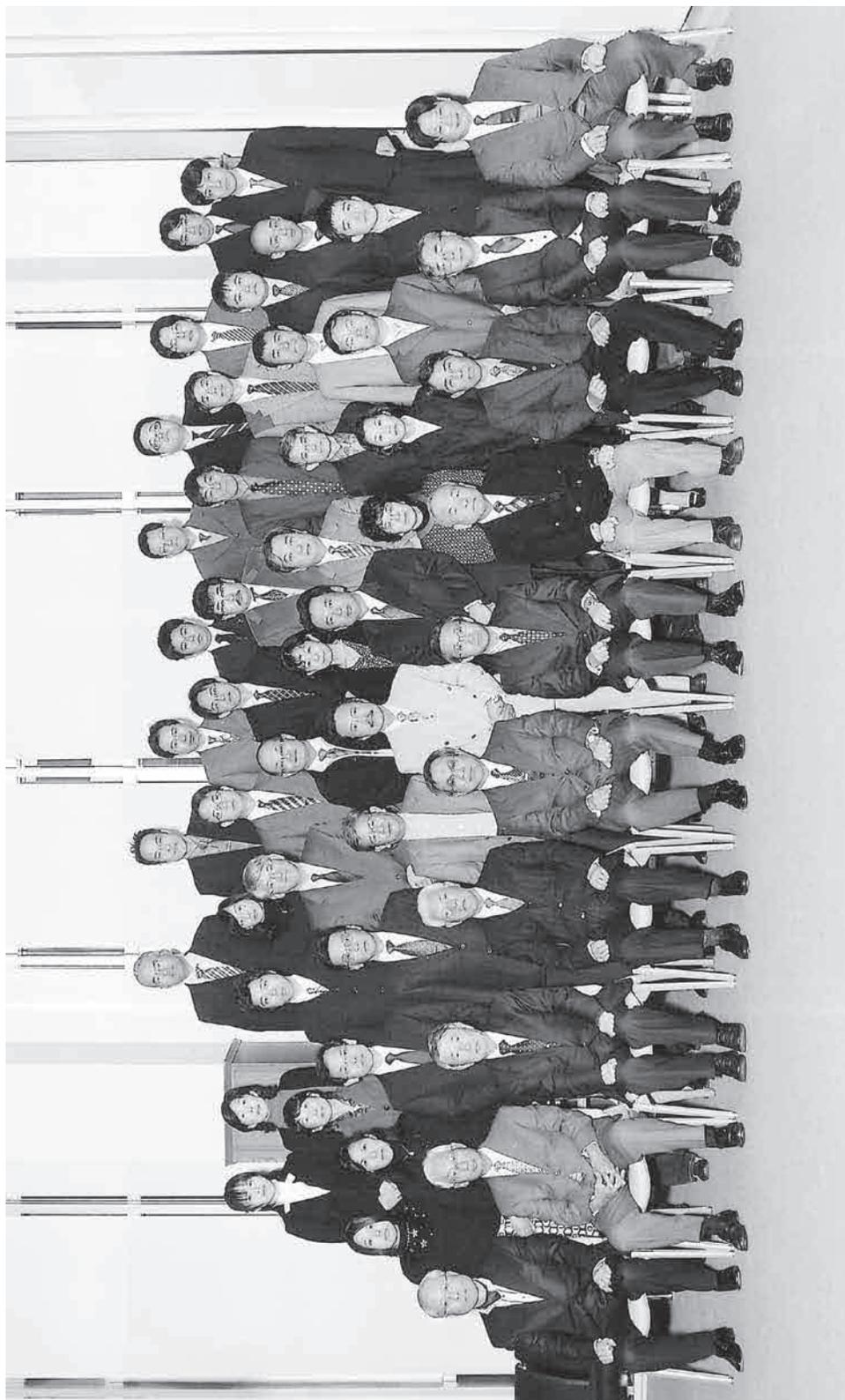
特別講演

座長 黒野祐一（鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科 教授）

「好酸球性中耳炎の臨床研究」

福岡大学医学部耳鼻咽喉科 教授

中川 尚志 先生



鹿児島大学大学院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室同門会 平成21年1月17日 於：県医師会館

1. 巡回診療（県医務課）

三島村（黒島，竹島，硫黄島）（平成20年12月6日～7日）

十島村（悪石島，小宝島，宝島）（平成21年2月14日～15日）

2. 身体障害者巡回診療

6月 薩摩川内市（鹿島支所・下甌支所）

7月 三島村（竹島）

8月 屋久町（宮之浦支所・尾之間支所）

9月 十島村（宝島）

3. 学校保健（統計報告）

平成20年4月から6月にかけて、当科において鹿児島県下の以下の耳鼻咽喉科学校検診を行った。

【対象地域】

鹿児島市，阿久根市，垂水市，西之表市，松山町（志布志市），財部町（曾於市），輝北町（鹿屋市），大崎町

【受診者数】

小学生4,830名，中学生2,757名，高校生320名

【対象疾患】

耳垢栓塞，浸出性中耳炎，慢性中耳炎，鼻中隔弯曲症，鼻アレルギー，慢性鼻炎，慢性副鼻腔炎，扁桃肥大 の 9 疾患

【結果】

疾患別の有病率については、ここ数年の傾向どおり、鼻アレルギーが圧倒的に多く1割弱であった。ついで慢性副鼻腔炎，耳垢栓塞の順であった（図1）。耳疾患は学年とともに有病率は減少傾向であった（図2）。鼻疾患では、鼻アレルギーはどの学年でも1割弱の有病率であった（図3）。扁桃疾患は学年とともに減少傾向であった（図4）。

図1 疾患別有病率

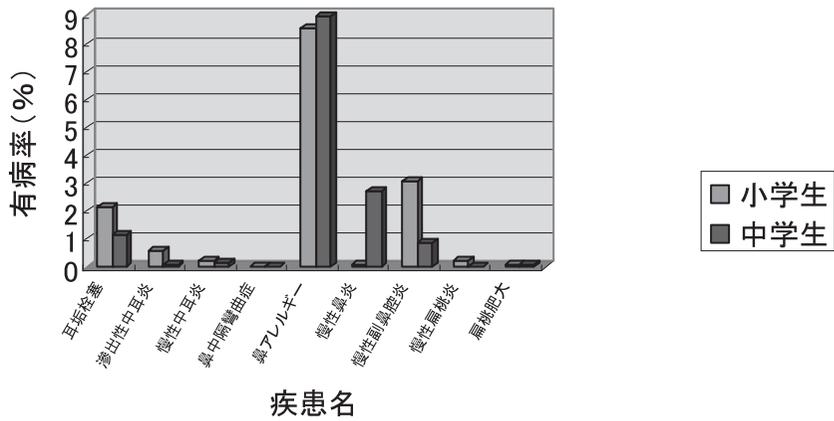


図2 学年別耳疾患有病率

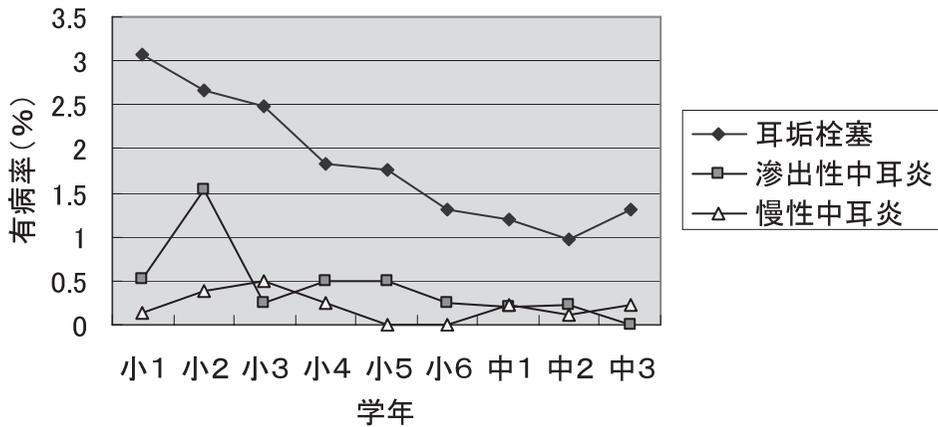


図3 学年別鼻疾患有病率

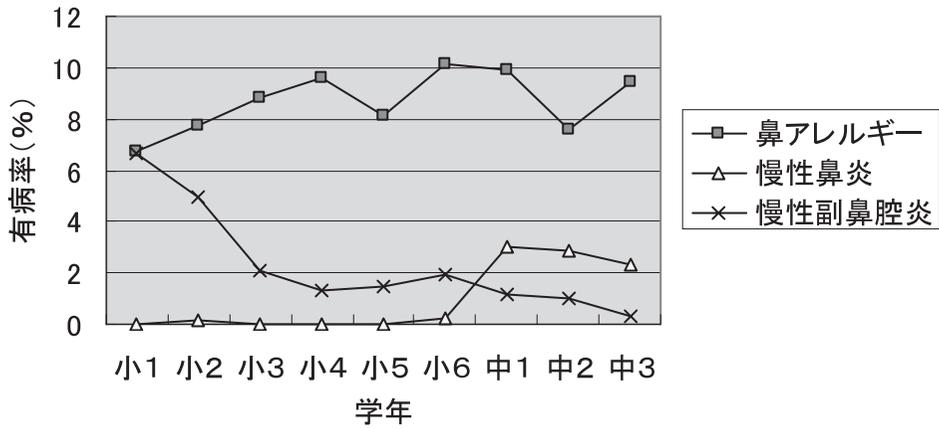
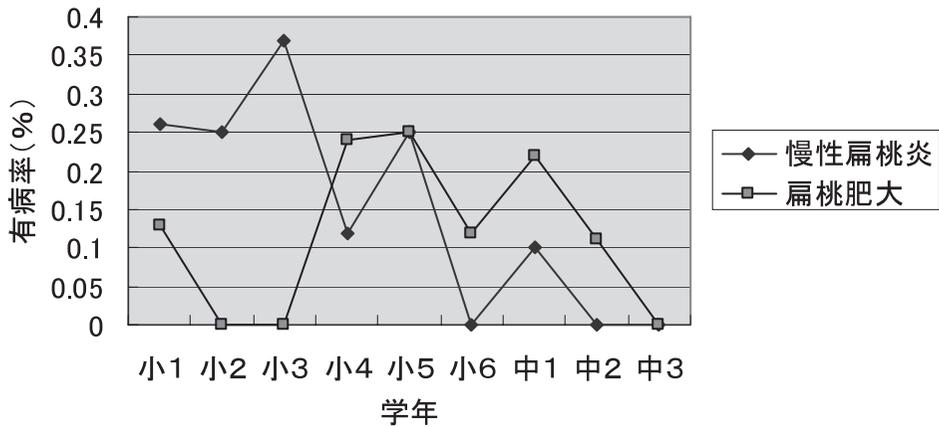


図4 学年別扁桃疾患有病率



1. アレルギー外来

アレルギー外来は、診断から治療、定期外来通院までを一連の流れで行っており、毎週月曜日の午後2時～4時まで特殊外来として行っている。近年、インターネットなどによる情報化社会の影響もあり、アレルギー外来を受診されるスギ花粉症患者さんの飛散開始前治療も周知されつつあります。このように患者さんの要望を満たすべく的確な診断をするとともにスギ花粉症患者さんの初期治療、導入療法、維持療法を、しっかりと系統だてて治療管理を行っています。今後もアレルギー患者さんの症状の緩和に貢献すべく、特殊外来としてアレルギー外来を進めさせていただきたく存じます。

(文責：吉福 孝介)

2. 副鼻腔炎外来 since 1994

最近の副鼻腔炎外来では、好酸球性副鼻腔炎の術後治療や経過観察を中心に患者さんを診ています。ところで、最近、好酸球性副鼻腔炎の病態について、黄色ブドウ球菌の菌体外毒素（エンテロトキシン）のスーパー抗原としての働きが注目されています。さらに、従来から一部でいわれていた真菌に対するアレルギーの関与に加えて、真菌の菌体成分のスーパー抗原として関与している可能性についても報告されるようになっており、好酸球性副鼻腔炎の病態論についても新しいものが今後いろいろ出てくる可能性が出てきました。

副鼻腔炎外来の第一の目的は、治療成績の向上のための術後治療を行い患者さんの利益となることですが、同時にポリクリなどの学生教育の場であり、そして、手術や本外来で得られる種々の臨床サンプルを用いた重要な臨床的病態研究の場でもあります。

昨年から今年にかけての具体的な成果やリサーチターゲットを以下に列記して副鼻腔炎外来の報告とさせていただきます。

1. 当時の東大医科研 助教授、井ノ上逸朗先生（現、東海大学総合医学研究所、所長、教授）との共同研究としてはじめたアスピリン喘息の研究成果が、本年英文論文として accept され一区切りをつけることができました。

Sekigawa T, Tajima A, Hasegawa T, Hasegawa Y, Inoue H, Sano Y, Matsune S, Kurono Y, and Inoue I. Gene-expression profiles in human nasal polyp tissues from aspirin intolerant asthma patients and identification of the genetic susceptibility. Clin Exp Allergy (in press)

2. 好酸球性副鼻腔炎の鼻茸を用いた好酸球浸潤にかかわる, Eotaxin などのサイトカインケモカインに関する研究。

3. 鼻副鼻腔炎の病態と血管内皮細胞増殖因子 (VEGF) の検討。

Matsune S, Ohori J, Sun D, Yoshifuku K, Fukuiwa T, Kurono Y. Vascular endothelial growth factor produced in nasal glands of perennial allergic rhinitis. Am J Rhinology 22; 365-370, 2008.

4. 抗菌活性をなくし, 抗炎症作用を目的として開発されたエリスロマイシンの誘導体 EM900の好酸球性を含めた副鼻腔炎の治療効果に関する実験的検討。

(EM900の開発者でもある北里大学生命科学研究所, 教授 砂塚敏明先生との共同研究)

(文責 松根彰志)

3. 難聴・耳鳴り外来

難聴・耳鳴り外来

金曜日 (午後) (月 3 回)

補聴器外来

毎週月 (終日)・水 (午前)

難聴・耳鳴り外来は, 2003年4月に開設以来, 丸5年を迎えました。当外来では, 主に Jastreboff によってはじめられた指向性カウンセリングと音治療を組み合わせた耳鳴り治療法 TRT (Tinnitus Retraining therapy) を中心に行っています。とくに, 5年経過したということで, これまでの治療成績や問題点などまとめ, 第109回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会 (2008年大阪) で報告する機会が得られたことは, とても有意義であったと思います。今後も貴重な臨床データを積み重ねていきたいと思っています。

2008年春には日本で購入可能なノイズジェネレーター (TCI) を製造しているシーメンスが突然, TCI 事業中止を通告してきたことから, 医療の現場が混乱し, このような特殊なデバイスを使用した治療では, 医学的な理由とは別に, 会社の事情によって治療自体が, 大きく影響されざるを得ないことが示されたかたちになりました。(その後再び TCI 事業は再開されています。) 補聴器のように多種多様な機種の中から適切なものを選ぶ, とまではいかななくても, やはりノイズジェネレーターにおいても機種の選択肢は欲しいものです。

補聴器外来では、補聴器フィッティングから聴覚障害についての管理指導・患者啓蒙を行っています。2008年1～12月の新規患者数は、難聴・耳鳴り外来21名、補聴器外来45名でした。

(文責：宮之原郁代)

総施行件数 671 (2008.4月～2009.3月)

		悪性	良性
腫瘍			
喉頭腫瘍	SCC	37	squamous papilloma 3 hemangioma 1 neurofibroma 1
甲状腺腫瘍	papillary carcinoma	5	follicular adenoma 2 adenomatous goiter 2
上咽頭腫瘍	SCC	3	inverted papilloma 1 hemangioma 1 vascular leiomyoma 1
中咽頭腫瘍	SCC	19	squamous papilloma 2
	malignant lymphoma	1	
下咽頭腫瘍	SCC	26	squamous papilloma 1
上顎洞腫瘍	SCC	4	
鼻腔腫瘍	SCC	3	squamous papilloma 7 inverted papilloma 6 hemangioma 6 hemangiopericytoma 3 neurofibroma 1 hamartoma 1
耳下腺腫瘍	adenoid cystic carcinoma	2	Warthin tumor 13
	salivary duct carcinoma	2	pleomorphic adenoma 10
	basal cell carcinoma	1	basalcell adenoma 2
	epithelial-myoepithelial carcinoma	1	lymphoepithelial cyst 2
	acinic cell carcinoma	1	
	SCC	2	
顎下腺腫瘍	SCC	1	pleomorphic adenoma 3
	malignant lymphoma	2	
舌下腺腫瘍			ranula 1
小唾液腺腫瘍			Mikulicz disease
舌腫瘍	SCC	17	squamous papilloma 2
	SCC in situ	3	osteoma 1 pyogenic granuloma 2 carvenous hemangioma 2
硬口蓋腫瘍			pleomorphic adenoma 1 myoepithelioma 1
歯肉腫瘍	SCC	3	
口腔底腫瘍		2	
頬粘膜腫瘍	SCC	1	
頸部腫瘍			carotid body paraganglioma 4 pilomatrichoma 2 thyroglossal duct cyst 2 lateral cervical cyst 1
頸部リンパ節	malignant lymphoma	9	Kimura's disease 1
	SCC	5	Kikuchi disease 1
	papillary carcinoma	1	epithelioid granuloma 2
	malignant melanoma	1	
	sclerosing sweat duct carcinoma	1	
外耳道腫瘍	SCC	2	
	adenoid cystic carcinoma	1	
中耳腫瘍			cholesteatoma 8

(平成21年3月現在)

文部科学省科学研究費

基盤研究(B)(2)

舌下免疫 - 粘膜ワクチンの新たな投与経路としての有用性に関する研究

研究代表者 黒野祐一

分担者 松根彰志 吉福孝介 田中紀充 大堀純一郎

若手研究(B)

鼻アレルギーマウスモデルを用いた粘膜免疫の検討

研究代表者 田中紀充

若手研究(B)

長期持続型経鼻ワクチンの開発とその有効性に関する研究

研究代表者 福岩達哉

厚生労働省科学研究費補助金

代替医療の実施と有効性の科学的評価

主任研究者 岡元美孝 (千葉大学 耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学)

分担研究者 黒野祐一

研究協力者 松根彰志

1. 原 著

- (1) M.Kawabata, K.Yoshifuku, Y.Sagara and Y.Kurono
Ewing's sarcoma/primitive neuroectodermal tumour occurring in the maxillary sinus
Rhinology 46: 75-78, 2008
- (2) 黒野祐一, 早水佳子, 田中紀充, 大堀純一郎, 林 多聞, 川島雅樹
扁桃周囲膿瘍におけるレボフロキサシンの組織移行性に関する検討
日本耳鼻咽喉科感染症研究会会誌 26(1):219-222, 2008
- (3) 吉福孝介, 永野広海, 黒野祐一
咽後膿瘍により心肺停止したが救命し得た1症例
耳鼻咽喉科展望 51(1):43-48, 2008
- (4) 福岩達哉, 西元謙吾, 田中紀充, 大堀純一郎, 林 多聞, 野崎 剛, 黒野祐一
抜歯後感染に続発した難治性顎下部膿瘍の一例
日本耳鼻咽喉科感染症研究会会誌 26(1):237-240, 2008
- (5) 川島雅樹, 福岩達哉, 黒野祐一
涙嚢に発生したオンコサイトーマ例
耳鼻臨床 101(7):521-526, 2008
- (6) 福岩達哉, 川島雅樹, 林 多聞, 黒野祐一
喉頭肉芽腫の治療成績に関する検討—Microdebrider による外科的治療の有効性—
喉頭 20(1):13-19, 2008
- (7) 福岩達哉, 川島雅樹, 黒野祐一
特集—乳頭腫の臨床—
再発性気道乳頭腫に対するマイクロデブリッターの使用経験
JOHNS 24(7):1083-1087, 2008

- (8) 福岩達哉, 黒野祐一
—口蓋扁答摘出術—Cold instruments による術式—
頭頸部外科 18(1):21-25, 2008
- (9) 福岩達哉, 藤橋浩太郎, 黒野祐一
免疫賦活のためのアジュバント
耳鼻咽喉科展望 51補冊 (1):39-42, 2008
- (10) Fukuiwa T, Nishimoto K, Hayashi T, Kurono Y
Venous thrombosis after microvascular free-tissue transfer in head and neck cancer re-
construction
Auris Nasus Larynx 35:390-396, 2008
- (11) Fukuiwa T, Sekine S, Kobayashi R, Suzuki H, Kataoka K, Gilbert RS, Kurono Y, Boyaka
PN, Krieg AM, McGhee JR, Fujihashi K
A combination of Flt3 ligand cDNA and CpG ODN as nasal adjuvant elicits NALT dendritic
cells for prolonged mucosal immunity.
Vaccine. 26(37):4849-4859, 2008.
- (12) Matsune S, Ohori J, Sun D, Yoshifuku K, Fukuiwa T and Kurono Y
Vascular endothelial growth factor produced in nasal glands of perennial allergic rhinitis
American Journal of Rhinology 22(4):365-370, 2008
- (13) 宮之原郁代, 松根彰志, 大堀純一郎, 黒野祐一
スギ花粉症に対するプラシラカスト初期療法の有用性
耳鼻と臨床 55(1):31-38, 2009
- (14) 吉福孝介, 永野広海, 黒野祐一
顔面麻痺を伴った破傷風例
耳鼻臨床 101(1):55-60, 2008
- (15) 吉福孝介, 永野広海, 黒野祐一
早期診断治療により改善したベーチェット病例
耳鼻臨床 101(2):115-120, 2008

- (16) 吉福孝介, 永野広海, 黒野祐一
CO₂レーザーと硬化療法併用治療した喉頭血管腫例
耳鼻臨床 101(3):215-220, 2008
- (17) 吉福孝介, 永野広海, 黒野祐一
頻回の外科的処置を要した深頸部および縦隔腫瘍例
耳鼻臨床 101(5):367-373, 2008
- (18) 吉福孝介, 松根彰志, 黒野祐一
プラシラカストの鼻茸好酸球浸潤抑制効果に関する臨床的検討
耳鼻臨床 101(9):715-720, 2008
- (19) 吉福孝介, 黒野祐一
経鼻的下垂体手術後に発症した鼻中隔腫瘍例の1例
耳鼻咽喉科展望 51(6):35-39, 2008

2. 総 説

- (1) 松根彰志
「小児と成人の副鼻腔炎の違い」—疫学と病態の観点から—
日本鼻科学会会誌 46(1):66-67, 2007
- (2) 松根彰志
特集・耳鼻咽喉科で使用する外用薬の上手な使い方 副鼻腔炎
MB ENT 92:82-86, 2008
- (3) 松根彰志
上顎洞真菌症と内視鏡手術 耳鼻臨床 101(11):826-827, 2008
- (4) 松根彰志
特集/ 耳鼻咽喉科領域とアレルギー 「耳疾患とアレルギー」
アレルギーの臨床28(5):38-41, 2008

- (5) 黒野祐一, 田中紀充, 福岩達哉, 宮下圭一, 早水佳子
 「第109回日本耳鼻咽喉科学会シンポジウム」耳鼻咽喉科臨床の進歩
 - 上気道炎症とワクチン療法 -
 日本耳鼻咽喉科学会会報 111:689-694, 2008
- (6) 宮之原郁代, 松根彰志, 黒野祐一
 使用実施調査からみた花粉症に対する第2世代抗ヒスタミン薬の選択基準
 臨床免疫・アレルギー科 49(4):420-425, 2008
- (7) 松根彰志, 大堀純一郎, 吉福孝介, 黒野祐一
 好酸球性副鼻腔炎の病態と診断に関する問題点
 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 81(1):11-17, 2009
- (8) 松根彰志
 病診・診診連携 好酸球性副鼻腔炎—耳鼻咽喉科と呼吸器内科の連携—
 鼻アレルギーフロンティア 9(1):44-47, 2009
- (9) 黒野祐一
 特集：鼻アレルギー診療ガイドライン改訂に臨んで
 7. 鼻閉用薬剤の使用法
 Progress in Medicine 29(2):47(311)-50(314), 2009

3. その他

- (1) 大堀純一郎
紙上診察室 耳垂れ 南日本新聞, 平成20年10月10日
- (2) 早水佳子
紙上診察室 メニエール病 南日本新聞, 平成21年2月13日
- (3) 松根彰志
テーマ「耳のケア」 KKB鹿児島放送 「新鮮!発見!かごしま農業王国」
平成21年2月28日放送

4. 国内学会発表

- (1) 特別講演
九州大学医学部臨床講義 平成20年4月8日 (福岡市)
「上気道の免疫・アレルギー疾患」
黒野祐一
- 福岡地区耳鼻咽喉科専門医会学術講演会 平成20年4月19日 (福岡市)
「アレルギー性及び好酸球性鼻副鼻腔疾患治療におけるロイコトリエン受容体拮抗薬の将来展望」
松根彰志
- 第15回沖縄県耳鼻咽喉科医会講演会 平成20年4月19日 (那覇市)
「副鼻腔炎の病態とその治療戦略」
黒野祐一
- 熊本大学医学部臨床講義 平成20年4月16日 (熊本市)
「上気道疾患と粘膜免疫」
黒野祐一
- 高知県医師会学術講演会 平成20年5月24日 (高知市)
「アレルギー性鼻炎の日常診療における留意点」
黒野祐一

AirWay フォーラム in SAGA 平成20年6月6日 (佐賀市)

「アレルギー性鼻炎診療における留意点」

～one airway one disease の観点から～

黒野祐一

アレルギー性鼻炎に関する学術講演会 平成20年6月17日 (鹿児島市)

「アレルギー性鼻炎の診断・治療のポイント」

黒野祐一

鼻・副鼻腔研究会 平成20年6月28日 (那覇市)

「副鼻腔炎の病態とその治療戦略」

黒野祐一

京阪神耳鼻咽喉科臨床懇話会 平成20年7月5日 (大阪市)

「慢性副鼻腔炎の病態に基づいた治療法の選択」

黒野祐一

第6回熊本耳鼻咽喉科アレルギー研究会 平成20年7月16日 (熊本市)

「鼻副鼻腔炎の病態・治療と血管内皮細胞増殖因子」

松根彰志

人吉・球磨セミナー 平成20年7月24日 (人吉市)

「アレルギー性鼻炎の診療における留意点」

黒野祐一

南薩医師会前期学会 平成20年8月8日 (加世田市)

「急性上気道感染症の診療における留意点」

黒野祐一

学術講演会 平成20年8月29日 (奄美市)

「アレルギー性鼻炎の治療とロイコトリエン受容体拮抗薬」

松根彰志

北海道感染治療学術講演会 平成20年9月19日 (札幌市)
「急性上気道感染症の診療における留意点」－キノロン系抗菌薬の位置付け－
黒野祐一

第43回弘前耳鼻咽喉科医会「鼻の日講演会」 平成20年9月19日 (弘前市)
「アレルギー性鼻炎の病態・診断・治療における最近の話題」
松根彰志

静岡県耳鼻咽喉科医会講演会 平成20年10月11日 (静岡市)
「急性上気道感染症の診療における留意点」－ニューキノロン系抗菌薬の位置付け－
黒野祐一

第99回札幌市耳鼻咽喉科医会学術研修会 平成20年10月18日 (札幌市)
「鼻副鼻腔の病態に基づく治療の考え方」
松根彰志

広島耳鼻咽喉科アレルギー疾患研究会 平成20年10月30日 (広島市)
「アレルギー性鼻炎診療における留意点」
～one airway one disease の観点から～
黒野祐一

慶応義塾大学耳鼻咽喉科学術講演会 平成20年11月1日 (東京都)
「アレルギー性鼻炎・花粉症の治療における留意点」
黒野祐一

筑豊地区耳鼻咽喉科講演会 平成20年11月19日 (飯塚市)
「アレルギー性鼻炎・花粉症治療の病態治療における最近の話題」
松根彰志

第19回補聴器販売講習会 平成20年11月20日 (鹿児島市)
「耳の構造と難聴について」
大堀純一郎

ぜんそく学習と交流の集い記念講演会 平成20年11月23日 (鹿児島市)

「ぜんそくと耳鼻科疾患」

松根彰志

埼玉県鼻副鼻腔局所ステロイド療法研究会 平成20年11月27日 (さいたま市)

「アレルギー好酸球性炎症と鼻副鼻腔炎」

松根彰志

長崎県耳鼻咽喉科専門医講座 平成20年12月10日 (長崎市)

「アレルギー性鼻炎・花粉症の薬物療法」

黒野祐一

第47回福岡感染症懇話会 平成20年12月15日 (福岡市)

「扁桃炎治療におけるニューキノロン系抗菌薬の位置づけ」

黒野祐一

第16回東海耳鼻咽喉科生体防御研究会 平成21年1月10日 (名古屋市)

「上気道炎症と粘膜免疫」

黒野祐一

佐賀県耳鼻咽喉科薬剤研究会講演会 平成21年1月22日 (佐賀市)

「アレルギー性鼻炎とその周辺疾患」

黒野祐一

始良地区耳鼻咽喉科講演会 平成21年1月22日 (鹿児島市)

「アレルギー性鼻炎、花粉症の最近の話題」

松根彰志

第10回倉敷耳鼻咽喉科フォーラム 平成21年1月23日 (倉敷市)

「アレルギー性鼻炎・花粉症の診療における留意点

－鼻アレルギー診療ガイドライン改訂をふまえて－」

黒野祐一

学術講演会 ―眼科・耳鼻咽喉科の花粉症を考える― 平成21年1月24日（京都市）

「アレルギー性鼻炎・花粉症の診療における留意点

－鼻アレルギー診療ガイドライン改訂をふまえて－」

黒野祐一

アレルギー性鼻炎研究会 in 高知 平成21年1月24日（高知市）

「アレルギー性鼻炎と上下気道疾患」

松根彰志

中津市医師会学術講演会 平成21年1月29日（中津市）

「アレルギー性鼻炎・花粉症の病態と治療～最近の話題を中心に～」

松根彰志

第5回東邦花粉症フォーラム 平成21年2月5日（東京都）

「花粉症の診療における留意点

－鼻アレルギー診療ガイドライン改訂をふまえて－」

黒野祐一

第28回花粉アレルギー研究会 平成21年2月5日（広島市）

「最近の副鼻腔炎の病態と治療の考え方」

松根彰志

第183回八幡医師会学術講演会 平成21年2月6日（北九州市）

「アレルギー性鼻炎・花粉症の病態と治療における最近の話題」

松根彰志

鼻アレルギー講演会 平成21年2月17日（横浜市）

「花粉症の診療における留意点

－鼻アレルギー診療ガイドライン改訂をふまえて－」

黒野祐一

第17回九州アレルギー講習会～福岡～ 平成21年2月20日（福岡市）

「アレルギー性鼻炎治療 最新の知見」

黒野祐一

都城市北諸県郡臨床内科医会 平成21年2月24日 (都城市)

「アレルギー性鼻炎・花粉症の薬物療法

～ガイドライン改訂版2009をふまえて～」

黒野祐一

大分市小児科医会学術講演会 平成21年2月25日 (大分市)

「耳鼻科から見た小児アレルギー性鼻副鼻腔炎とアトピー疾患」

松根彰志

西都市・西児湯内科医かい学術講演会 平成21年2月27日 (西都市)

「花粉症・アレルギー性鼻炎の診断と治療」

松根彰志

第5回郡山アレルギー研究会 平成21年2月28日 (郡山市)

「アレルギー性鼻炎の日常診療における留意点」

黒野祐一

第2回山口県感染症フォーラム～耳鼻咽喉科領域～ 平成21年3月5日 (山口市)

「急性上気道感染症の診療における留意点－ニューキノロン系抗菌薬の位置付け－

黒野祐一

アレルギー性鼻炎セミナー 平成21年3月5日 (津山市)

「新 鼻アレルギー診療ガイドラインの要点並びに活用について」

松根彰志

第7回北海道耳鼻咽喉科セミナー 平成21年3月14日 (札幌市)

「アレルギー性鼻炎とその関連疾患」

黒野祐一

人吉市・球磨郡医師会学術講演会 平成21年3月30日 (人吉市)

「アレルギー性鼻炎・花粉症の薬物治療 ～ガイドライン改訂版2009をふまえて～」

黒野祐一

(2) シンポジウム

第109回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会 平成20年5月15日～17日（大阪市）

耳鼻咽喉科臨床の進歩

「上気道炎症とワクチン療法」

黒野祐一

第21回日本口腔・咽頭科学会総会・学術講演会 平成20年9月11日～12日（鹿児島市）

「上気道感染症に対する舌下粘膜ワクチンの有用性」

田中紀充, 黒野祐一

第47回日本鼻科学会総会・学術講演会 平成20年9月25日～27日（名古屋市）

副鼻腔炎遷延化・難治化の最近の問題

「アレルギーや好酸球との関係から」

松根彰志

(3) パネルディスカッション

第21回日本口腔・咽頭科学会総会・学術講演会 平成20年9月11日～12日（鹿児島市）

「CT, MRIによる耳下腺腫瘍の画像診断」

大堀純一郎

(4) 一 般

第109回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会 平成20年5月15日～17日（大阪市）

「好酸球性副鼻腔炎治療におけるEM900の有効性の検討」

松根彰志, 大堀純一郎, 吉福孝介, 原田みずえ, 田中紀充, 砂塚敏明, 大村 智,
黒野祐一

「耳鳴に対するTRTの治療効果についての検討」

宮之原郁代, 西元謙吾, 大堀純一郎, 相良ゆかり, 黒野祐一

「抗原舌下投与による鼻粘膜抗原特異的粘膜免疫応答」

田中紀充, 宮下圭一, 早水佳子, 福岩達哉, 福山 聡, 黒野祐一

「インフルエンザ菌の気道上皮接着とphosphorylcholineの関連性について」

川畠雅樹, 田中紀充, 黒野祐一

第23回九州連合地方部会学術講演会 平成20年5月31日～6月1日 (那覇市)

第124回日耳鼻鹿児島県地方部会

「抗原経鼻投与と舌下投与における免疫応答誘導の比較」

宮下圭一, 田中紀充, 早水佳子, 福岩達哉, 福山 聡, 黒野祐一

「慢性副鼻腔炎に対するESS前後での嗅覚評価の検討」

川畠雅樹, 松根彰志, 林 多聞, 黒野祐一

第32回日本頭頸部癌学会 第29回頭頸部手術手技研究会 平成20年6月11日～13日(東京都)

「中咽頭側壁癌の術式に関する検討—下顎離断の適応について—

大堀純一郎, 林 多聞, 福岩達哉, 西元謙吾, 黒野祐一

「耳下腺リンパ節転移を伴う側頭部皮膚扁平上皮癌の一例」

宮下圭一, 西元謙吾, 松下茂人, 松根彰志, 黒野祐一

第20回日本アレルギー学会春季臨床大会 平成20年6月12日～14日 (東京都)

「好酸球性副鼻腔炎におけるマクロライドEM900の有用性に関する検討」

松根彰志, 大堀純一郎, 吉福孝介, 原田みずえ, 砂塚敏明, 大村 智, 黒野祐一

「スギ花粉症患者の鼻粘膜擦過細胞におけるH1受容体mRNAの発現」

牧瀬高穂, 大堀純一郎, 宮之原郁代, 松根彰志, 黒野祐一

第3回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会 平成20年6月21日～22日(鹿児島市)

「前頭切開を行い摘出した幼児眼窩内異物症例」

谷本洋一郎, 田中紀充, 松根彰志, 黒野祐一

第70回耳鼻咽喉科臨床学会総会および学術講演会 平成20年6月27日～28日(長崎市)

「上顎洞真菌症に対する下鼻甲介の内側下方スイング法による内視鏡手術の試み」

松根彰志, 早水佳子, 田中紀充, 林 多聞, 黒野祐一

「当科における上顎洞真菌症治療と予後について」

林 多聞, 松根彰志, 黒野祐一

「咽後膿瘍により心肺停止をきたした1症例」

吉福孝介, 永野広海, 黒野祐一

Bacterial Adherence & Biofilm 第22回学術集会 平成20年7月4日～5日(淡路市)

「肺炎球菌/インフルエンザ菌の気道上皮付着における phosphorylcholine の役割」

川畠雅樹, 田中紀充, 黒野祐一

第7回鹿児島めまい研究会 平成20年7月17日

「うつ病発見の契機となった急性低音障害型感音難聴の一例」

宮之原郁代, 川島雅樹, 原田みずえ, 宮下圭一, 黒野祐一

第38回日本耳鼻咽喉科感染症研究会, 第32回日本医用エアロゾル研究会

平成20年9月5日～7日 (松江市)

「急性喉頭蓋炎における気道確保について—84症例の検討から—」

吉福孝介, 宮下圭一, 黒野祐一

「気道上皮細菌付着における Phosphorylcholine の関与」

川島雅樹, 田中紀充, 黒野祐一

第21回日本口腔・咽頭科学会総会・学術講演会 平成20年9月11日～12日(鹿児島市)

「当科における小児睡眠時無呼吸の検討」

牧瀬高穂, 松根彰志, 田中紀充, 林 多聞, 黒野祐一

第47回日本鼻科学会総会・学術講演会 平成20年9月25日～27日 (名古屋市)

「鼻腔血管腫に対する術前血管塞栓療法の有効性について」

吉福孝介, 永野広海, 原田みずえ, 黒野祐一

「慢性副鼻腔炎を対象とした各種嗅覚検査法の評価」

川島雅樹, 松根彰志, 黒野祐一

難聴遺伝子の研究会2008 平成20年10月4日 (東京都)

「けいれん発作の精査中に判明したミトコンドリア遺伝子3243A→G 変異の一家系」

宮之原郁代, 黒野祐一

第18回日本耳科学会総会・学術講演会 平成20年10月16日～18日 (神戸市)

「中耳炎予防を目的とした Phosphorylcholine 舌下ワクチンにおける粘膜免疫応答の観察」

田中紀充, 宮下圭一, 黒野祐一

「当科における心因性難聴症例の検討—診断と治療における留意点—」

宮下圭一, 宮之原郁代, 黒野祐一

第60回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会 平成20年11月6日～7日(熊本市)

「緊急気管切開術を行ったアンギオテンシンⅡ受容体拮抗薬による血管浮腫症例」

林 多聞, 谷本洋一郎, 黒野祐一

第58回日本アレルギー学会秋季学術大会 平成20年11月27日～11月29日（東京都）

「好酸球性副鼻腔炎鼻茸中の好酸球遊走活性化因子発現についての検討」

原田みずえ，大堀純一郎，吉福孝介，松根彰志，黒野祐一

第19回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会

平成21年1月29日～1月30日（名古屋市）

「扁桃周囲膿瘍に対する即時扁桃摘の意義と手術術式について」

早水佳子，田中紀充，黒野祐一

「頸動脈小体腫瘍の2例」

川島雅樹，大堀純一郎，田中紀充，黒野祐一

第27回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会 平成21年2月12日～2月14日（千葉市）

「Phosphorylcholine（PC）経鼻・舌下投与における免疫応答の相違点」

田中紀充，早水佳子，宮下圭一，福山 聡，黒野祐一

「小児滲出性中耳炎における血管内皮増殖因子（VEGF）の役割

積山幸祐，松根彰志，黒野祐一

「鼻粘膜におけるヒスタミンH1受容体発現と初期療法の効果」

牧瀬高穂，大堀純一郎，宮之原郁代，松根彰志，黒野祐一

第21回日本喉頭科学会総会・学術講演会 平成21年3月26日～27日（前橋市）

「当科における喉頭気管分離術後の嚥下機能について」

林 多聞，吉福孝介，大堀純一郎，黒野祐一

「呼吸困難を初発症状とした喉頭髓外形形質細胞腫の一例」

牧瀬高穂，平瀬博之，黒野祐一

ワークショップ

第15回マクロライド新作用研究会 平成20年7月12日（東京都）

EM900の有用性について

「EM900と好酸球性副鼻腔炎」

松根彰志，原田みずえ，大堀純一郎，吉福孝介，黒野祐一

5. 国際学会発表

15th World Congress for Bronchology (WCB) 15th World Congress for Bronchoesophagology (WCBE) 平成20年 3月30日～4月2日 (東京都)

「Application of the microdebrider for the Treatment of Laryngeal Granuloma」

Tatsuya Fukuiwa, Masaki Kawabata, Tamon Hayashi, Kengo Nishimoto, Yuichi Kurono

「Surgical treatment for acute epiglottitis」

Keiichi Miyashita, Kouji Deguchi, Masato Ushikai, Yuichi Kurono

The 12th Japan-Korea Joint Meeting of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery

平成20年 4月3日～5日 (奈良市)

「The Role of VEGF on the production of VEGF and TGF- β 1 in nasal mucosa of patient with nasal allergy」

Junichiro Ohori, Shoji Matsune, Takao Makise, Kousuke Yoshifuku, Yuichi Kurono

「Mucosal and systemic immune responses induced by sublingual immunization with phosphorycholine」

Norimitsu Tanaka, Yoshiko Hayamizu, Keiichi Miyashita, Satoshi Fukuyama, Yuichi Kurono

Seven Departments Joint Meeting of Otolaryngology・2009

平成21年 3月27日～29日 (淡路市)

「Sulingual immunization with phosphorylcholine induces antigen specific mucosal and systemic immune responses in mice

Yoshiko Hayamizu, Norimitsu Tanaka, Keiichi Miyashita, Yuichi Kurono

「Surgical treatment for lateral wall of oropharynx carcinoma」

Junichiro Ohori, Tamon Hayashi, Yuichi Kurono

1. 新入局員紹介

馬 越 瑞 夫

平成21年4月に鹿児島大学耳鼻咽喉科へ入局して、はや1年が過ぎようとしています。

この1年を振り返ってみますと、笑って済ますことのできないような苦い思いの連続であったように感じます。

さて本年は残念ながら新入局員は1人もいないようです。

引き続き諸先輩方から学ばせていただくとともに、新入局員の勧誘も行ってまいりたいと存じます。

私個人に関してはさし当たって面白い話題もありませんので、紙面上の都合、また当科のモットーとなりつつある“地球のエコ”の観点からこれ以上の駄文長文は控えさせていただきます。

今後ともよろしくお願いします。



2. 医局人事（平成21年4月現在）

教 授 黒野祐一
准教授 松根彰志
助 教 林 多聞, 吉福孝介, 田中紀充, 大堀純一郎, 早水佳子
医 員 宮下圭一, 原田みずえ, 川畠雅樹, 牧瀬高穂, 馬越瑞夫
大学院生 川畠雅樹, 牧瀬高穂

医 局 長 早水佳子
外来医長 吉福孝介
病棟医長 大堀純一郎

関連病院（平成21年4月現在）

鹿児島医療センター	西元謙吾
国立療養所星塚敬愛園	宮之原郁代
鹿屋医療センター	平瀬博之
鹿児島生協病院	積山幸祐
藤元早鈴病院	森園健介
あまたつクリニック	谷本洋一郎
鹿児島市立病院	高木 実
ラホイヤーアレルギー免疫研究所	福山 聡

3. 学会報告

第109回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会

田 中 紀 充

平成20年5月15日から17日まで、大阪国際会議場にて開催され、参加させていただいた。大会3日目のシンポジウム「耳鼻咽喉科臨床の進歩」においては、黒野教授が「上気道炎症とワクチン療法」というテーマで、ワクチン療法の現状と将来展望を、基礎研究で得られた知見を今後どのように臨床へ結びつけるかも含めて講演された。その他、松根先生が好酸球性副鼻腔炎における新しいマクロライドの有効性の検討、宮之原先生がTRT療法、川島先生と私が基礎実験の内容で発表をした。大きな会場で、会場も分かれて行われるため、腰をすえてじっくりという雰囲気ではないが、通常、聴くことの出来ない内容の講演、臨床セミナーは貴重であった。また、会期期間中、昨年主催した小児耳鼻咽喉科学会、口腔咽頭学会の打ち合わせ等もあってタイトなスケジュールであった。

第20回日本アレルギー学会春季臨床大会

牧 瀬 高 穂

平成20年6月12日から3日間、ホテル日航東京で開催された第20回日本アレルギー学会春季臨床大会に黒野教授、松根准教授、小生の3人で参加いたしました。数多くの講演やシンポジウム、口演、ポスター発表などがあり非常に勉強になる学会でした。特に、呼吸器内科や小児科や皮膚科などで扱うアレルギー疾患についての講演などは、耳鼻咽喉科医としては日常診療においてあまり見かけないものが多く、大変参考になりました。ただ、気管支喘息関連の話題が多く、全体的に耳鼻咽喉科関連の話題が少ない印象を受けたことが気になりました。自分も含め、耳鼻咽喉科の存在をアピールする必要があるのではと感じました。

さて余談ですが、今回はパソコンのACアダプターを忘れていくという大失態であわや発表ができないのではという危機的状況に追い込まれました。しかしいつものラッキー加減でなんとか切り抜けることができました。詳細については直接お聞きくださいませ。夜は同時期に東京で開催されていた頭頸部外科学会に参加していた大堀先生、宮下先生とローストビーフを食べながら楽しい夜を過ごしました。

第32回日本頭頸部癌学会

宮 下 圭 一

平成20年6月11日から13日に東京のハイアットリージェンシーホテルで開催された第32回日本頭頸部癌学会に黒野教授、大堀先生と宮下の3人で参加しました。大堀先生は、東京女子医の吉原俊雄先生が司会をされた「耳下腺腫瘍臨床の最前線」のシンポジウムで、耳下腺腫瘍のMRI画像診断についてシンポジストとして発表されました。私は「耳下腺リンパ節転移を伴う側頭部皮膚扁平上皮癌の一例」という演題でポスターでの発表を行いました。

その他のシンポジウムや教育講演では、喉頭癌 T2, T3に対する治療法の実践や、ドセタキセル、シスプラチンを中心とした3剤化学療法（TPF）の治療効果について、下顎骨再建のときの工夫や顔面皮膚切開・縫合の基本手技（形成外科）など、臨床に則した内容が多く、今回初めて頭頸部癌学会に参加しましたが、とても興味深く勉強することができました。

東京の学会であったため、前もって赤坂の Lawry's The Prime Rib を予約し、同じく東京で学会のあった牧瀬先生と合流して、プライムナリブを満喫しました。もちろんその店で最も巨大な Diamond Jim Brady Cut で。目の前で、メイド風のバイトの女の子のパフォーマンスもビックリでした。

でもやっぱり Brady はアメリカの大富豪だっただけあって、肉も凄かったです。皆さんも機会があれば是非お勧めのお店です。

第23回九州連合地方部会・学術講演会

川 畠 雅 樹

第23回九州連合地方部会学術講演会は平成20年5月16日～17日に沖縄県那覇市で開催されました。医局員揃って前日入りし、その日は、国際通り界隈で夜を過ごしました。沖縄は梅雨しており、当初、天候の心配もされておりましたが、野球大会の日は、暑すぎることのない曇りの天気で、気持ちよく汗を流すことができました。学術講演会についても、多数の参加者の中、熱心な討論が交わされ、勉強になりました。私自身は当科での嗅覚検査のデータについての検討結果を発表させていただきました。

最終日には、飛行機出発までの時間もあり、国際通りで鹿児島では食することの到底できない沖縄料理の数々を頂き、皆、大満足で帰鹿しました。よく遊び、よく学ぶことのできた実りある時を過ごすことができました。

Bacterial Adherence & Biofilm 第22回学術集会

川 畠 雅 樹

平成20年7月4, 5日にかけて淡路夢舞台国際会議場で開催された Bacterial Adherence & Biofilm 第22回学術集会に参加させていただきました。細菌の付着とバイオフィームという限られた分野に焦点を絞った研究会であり、非常に深みのある発表ばかりで、楽しく拝聴することができました。私は、現在の研究テーマである、肺炎球菌・インフルエンザ菌の宿主への付着についての検討で得られたデータを発表させていただきました。口腔バイオフィル対策や細菌の接着を標的とした感染症予防などについて数々の知見を拝聴でき、非常に刺激のある会でした。また、会場となった淡路国際会議場は瀬戸内海を見晴らす、風光明媚なロケーションであり、会のあとのひと時を気持ちよく過ごすことができました。

第38回日本耳鼻咽喉科感染症研究会 第32回日本医用エアロゾル研究会

川 畠 雅 樹

第38回日本耳鼻咽喉科感染症研究会および第32回日本医用エアロゾル研究会が平成20年9月5日、6日に島根県松江市で開催されました。当教室からは黒野教授、吉福先生、私の3人が参加させていただきました。吉福先生が当科における急性喉頭蓋炎の検討を、私が自身の研究テーマである肺炎球菌・インフルエンザ菌の上皮付着性についての検討を発表させていただきました。本会は感染症という耳鼻咽喉科診療に最もなじみ深く、かつ苦渋するテーマを扱っており、興味深い発表を多数、拝聴することができました。有効な抗生剤が増えてはいる今日でも、重傷感染症に対する治療は依然、苦渋するテーマであることを強く感じました。会の合間に、小泉八雲が愛した情緒ある町を、その当時の状況を思い描きながら散策したひとは、また格別でした。

第70回耳鼻咽喉科臨床学会学術講演会

林 多 聞

第70回耳鼻咽喉科臨床学会は6/27、6/28の2日間にわたり長崎大学主催で開催されました。鹿児島大学からは松根準教授、吉福先生と私の3人が参加しました。松根先生は「上顎洞真菌症に対する下鼻甲介の内側下方スイング法による内視鏡手術の試み」として口演を、吉福先生は「咽後膿瘍により心肺停止をきたした1症例」、私は「当科における上顎洞真菌症治療と予後について」のポスター発表でした。学会中は総じて活発な討論が交わされ、私の演題にも色々と質問をいただき、非常に勉強になりました。本学会では耳鼻咽喉科臨床誌創刊100周年記念として京都大学伊藤壽一先生による「耳鼻咽喉科臨床誌の歴史」の特別講演が行われ、あらためて歴史ある学会ということを実感しました。同じ九州内ではありますが長崎までの移動はなかなか大変で、また耳鼻咽喉科臨床学会は当科で第3回日本小児耳鼻咽喉科学会総会を開催した翌週に行われたため、なかなかあわただしい。しかしながら、懸念されていた天候も思いのほか良好でありましたし、またグラバー園での野外懇親会も趣向を凝らしたもので大変有意義な学会でした。さてその懇親会の席で某大学の教授とお話させて抱く機会がありました。その会話の中で「鹿児島大学では予演会というのがあって、非常にきびしくてそれが終わるともう学会は終わったようなものらしいじゃない」と同教授からきかれました。いったい誰がそんな内輪の話を他大学の教授にしたのかは、現在も不明です。

第47回日本鼻科学会総会・学術講演会

吉 福 孝 介

第47回日本鼻科学会総会・学術講演会は平成20年9月26日～27日に名古屋国際会議場で開催され、当教室からは黒野教授、松根准教授、川島先生と自分吉福が参加させていただいた。黒野教授は第37回鼻科学臨床問題懇話会～副鼻腔炎遷延化・難治化の最近の問題で司会を務められ、松根准教授は第37回鼻科学臨床問題懇話会～副鼻腔炎遷延化・難治化の最近の問題において「好酸球性副鼻腔炎—真菌の関与について—」を発表され、川島先生は嗅覚臨床で「慢性副鼻腔炎を対象とした各種嗅覚検査法の評価」を発表された。今回自分は運悪く学会開始時からの学会参加ができず、医局の先生方の発表を聴くことができなかった。自分吉福は良性腫瘍で「鼻腔血管腫に対する術前血管塞栓療法の有用性について」を発表させていただいた。自分なりに勉強し発表に臨んだが、厳しい質問なども受け、なかなかうまく質疑に返答できず悔やまれる結果となってしまった。鼻科学に対する研究から臨床に至るまでの学会であり非常に勉強となった。ちなみに、国際会議場に設置されたフォトギャラリーを見ることで学会の疲れを癒しました。

第18回日本耳科学会総会・学術講演会

宮 下 圭 一

平成20年10月16日から18日に兵庫県の神戸国際会議場で開催された第18回日本耳科学会総会・学術講演会に黒野教授、田中先生と宮下の3人で参加しました。田中先生は「中耳炎予防を目的とした Phosphorylcholin 舌下ワクチンにおける粘膜免疫応答の観察」という演題で発表され、私は、「当科における心因性難聴症例の検討—診断と治療における留意点—」という演題で発表致しました。耳科学会も初めての参加でしたが、ライブサジェリーで、あの湯浅涼先生が「低侵襲鼓室形成術」というタイトルで、実際の手術操作（局所麻酔）を行うところをライブ中継する特別企画があり、道具の使い方や無駄のない動きなど、とても印象に残りました。

神戸は鹿児島から神戸空港に直行便があり、新しい空港ということもあって、近代的で整然としたきれいな空港でした。夜はやっぱり名物の鉄板焼きを食べ、モロゾフのチョコレートとプリンをいただきました。

第60回気管食道科学会総会ならびに学術講演会

林 多 聞

平成20年11月6日から11月7日の2日間にわたり、第60回気管食道科学会総会が熊本大学の主催で行われました。同学会の演題発表は私のみでした。演題は「緊急気管切開を行ったアンギオテンシンⅡ受容体拮抗薬による血管浮腫症例」です。以前より降圧剤であるACE阻害薬による血管浮腫は有名でありその危険性は添付文書にも記載のあるところですが、作用起序の異なるアンギオテンシンⅡ受容体拮抗薬でも血管浮腫を生じることがあるということが最近認知されるようになっており、同じような症例を経験されている先生方から貴重なご意見をいただく機会を得られました。シンポジウムとして、「局所進行喉頭癌に対する音声保存治療」が提示され、手術、化学療法、放射線治療各方面から最新の取り組みが発表されました。その中でもとくにCHEPについて発表された中山明仁先生の手術は、昨年第一助手として前立ちし実際に拝見していることもあり、非常に興味深い内容でした。化学放射線併用療法、拡大部分切除など最近の進歩は目覚ましいものがあると思います。ビデオシンポジウムでは「気管食道領域における最新の鏡視下手術」、パネルディスカッションは「手術による反回神経麻痺－回避の工夫と起こったときの対策」と「異物診療の現状と将来」と実際の臨床に即した内容で、非常に実のある学会でした。

第58回日本アレルギー学会秋季学術大会

原 田 みずえ

平成20年11月27日～29日まで、東京国際フォーラムにて第58回日本アレルギー学会秋季学術大会が開催されました。黒野教授と松根准教授と私の3人で参加させていただきました。

私は「好酸球性副鼻腔炎鼻茸中の好酸球遊走活性化因子発現についての検討」と題してミニシンポジウムで発表させていただきましたが、まだまだ自分は勉強不足でわからないことだらけでしたので、基礎や内科の先生方もたくさん参加されており、私はこのような大きな学会に参加させていただいたことがなく、非常に緊張しました。これからもっと、研究を積み重ね、勉強していく必要があると反省しましたが、その夜、妹夫婦と御殿場にドライブに行き、東名高速から見える雪化粧の富士山の雄大さに癒され帰って来ました。

第19回日本頭頸部外科学会総会・学術講演会

早水佳子

平成21年1月29日～30日に、愛知医科大学の主幹のもと名古屋市、名古屋東急ホテルにて開催され、黒野教授をはじめ、私と川畠雅樹先生で参加させて頂きました。これまでの耳鼻咽喉科領域に加えて、境界領域として顎顔面、頸部、頭蓋底、機能再建、リハビリテーションなどの分野を包括する専門的な外科学の構築を目指した学会です。新しく専門的な外科学として、頭頸部外科学を確立させることが基本の趣意となっています。

シンポジウムとして、「頭頸部癌治療における化学放射線療法の役割」、「頭頸部癌の手術 適応・適応外の判断」、「副鼻腔周辺疾患に対する経鼻内視鏡的アプローチ」が行われ、どれも非常に充実した内容でした。

また、中耳真珠腫の手術を覚えたいという若手医師のサポートを目的として、基本手技からコツをテーマとした討論も行われました。

名古屋圏内の医科学生も本学会に参加しており、会場からは学生さんからの質問も多数見受けられ、将来的な展望にも明るいものを感じました。一般演題も248題と非常に多くの申し込みがあったそうで、本学会への期待や興味の高さを窺い知ることが出来ました。

また1年間、臨床に励み、次回の本学会にも是非参加したいと考えています。

第27回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会

牧瀬高穂

平成21年2月12日から3日間、千葉市で開催された第27回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会に黒野教授、田中先生、私の3人で参加いたしました。田中先生は指定口演、私はポスター発表でした。福山先生の帰国報告会が学会初日に行われ、活躍されている姿に大変感銘を受けました。また、田中先生の発表が口演の優秀賞に選ばれ表彰を受け、その日の夜は教授とともに祝杯を頂きました。嬉しいこと尽くめの学会となりました。少ないマンパワーながらも各大学が研究を進めている部分を垣間見、自分も頑張らねばと思いつつ鹿児島への帰路に着きました。

15th World Congress for Bronchoesophagology

宮 下 圭 一

平成20年3月30日から4月2日に東京の京王プラザホテルで開催された第15回世界気管食道科学会（World Congress for Bronchoesophagology）に黒野教授、福岩先生と宮下の3人で参加しました。福岩先生は「Application of the microdebrider for the Treatment of Laryngeal Granuloma」というタイトルでOralでの発表を行い、私はMini-Symposiumで、「Surgical treatment for acute epiglottitis」というタイトルで発表を行いました。環太平洋外科学会以来の2回目の国際学会参加でありましたが、残念なことに今回は東京での開催でした。日ごろから英語で論文は読んでいても、聞き英語と話し英語はまたぜんぜんちがうため、自分の英語力のなさを思い知るとともに、やっぱり英語のスキルアップも大事であると痛感いたしました。

夜は福岩先生とネットで見つけた新宿南口近くの韓国料理を食べ、そのころ東京ではかなり流行っていたKrispy Kreme Doughnutsを店の前に並んで買って食べました。ドーナツ食べるのに並ぶのははじめてでしたが、確かにすごくクリーミーでできたのでドーナツは最高に美味しかったです。

The 12th Japan-Korea Joint Meeting of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery

大 堀 純一郎

本学会は、2008年4月3～5日に奈良県の奈良新公会堂にて開催された。当科からは、黒野教授、田中先生、私、大堀の三人が参加した。4月の桜満開の時期で公会堂の前には、素晴らしい桜とたくさんの鹿が、出迎えてくれた。東京大学医科学研究所で田中先生と一緒に研究をしていたエンセイ大学の金先生、当教室に約3か月留学に来ていたソウル大学の朴先生も参加しており、久しぶりの再会に話にも花が咲いた。お互いの研究についてもdiscussionをすることができ、非常に刺激になった学会であった。学会場で催された狂言では、蝸牛（カタツムリ）という演題の狂言を鑑賞することができた。日本の伝統芸能と日本のユーモアを初めて体験し、韓国の先生方よりも、日本に住んでいるわれわれのほうが、日本という国の伝統を再認識させられたように感じた。最も狂言は日本語であったため、韓国の先生方にはその面白さは伝わらなかったようであるが…

来年は、本学会は韓国で行われる。朴先生からもnew dataをもって来年も参加してくれとのお誘いを受けた。来年も参加できるように研究を継続していかなければ…。

4. 関連病院便り

国立病院機構 鹿児島医療センター便り

西元謙吾

鹿児島医療センターでは今年度からオーダーリング、さらにフルオーダーリングによる診療体制が順次始まり、システム面での更新が図られました。また、今年度からDPCによる診療が当病院でも開始され、現在様々な過渡期と言ってもいいかと思われます。来年度は看護体制の変更、電子カルテへの移行なども控えており、医療システムの高度化に伴う変遷に乗り遅れないようにしなければなりません。

昨今の地方における医師不足は、じわりと鹿児島医療センターにも影響していると言わざるをえません。鹿児島県内における耳鼻咽喉科の入院加療施設の減少は、いやがおうでも入院患者の集中につながっています。当病院でも外来・入院患者の増加、特に悪性腫瘍の患者の増加が著しく、ある日の入院患者40人中33人が悪性腫瘍患者だったこともあります。現在の当科の診療体制は松崎・西元の2人でほとんどの外来・入院・手術をこなしています。08年度前半はローテートの研修医や後期研修の先生がいましたが、後半はほぼ2人だけであり、このマンパワーでは患者に行き届いた医療を十分提供できているとはいえませんでした。しかし、がん診療拠点病院として地域医療を支える病院として、鹿児島医療センターを訪れる頭頸部悪性腫瘍患者は、増える事はすれど減る事はないと思われます。今後は医師の能力というより、スタッフを含めた周囲の環境を整えることでなんとか対応していこうと考えています。来年度は鹿児島医療センターへの人手の増加を切に願う今日この頃です。

この忙しい中でも、松崎先生は緩和医療のセミナーを主催されたり、私西元もがん治療認定医の資格を取ったりとがん治療の充実に努めています。病院スタッフも我々をサポートしてってくれていますので、がん治療における充実度は09年度も進んでいくと思われれます。

08年度の手術症例数を示します。これ以外にも、放射線化学療法の患者が多数入院していましたので昨年度より大幅に入院患者数は増加しています。

良性疾患

口蓋扁桃摘出術・アデノイド切除術など	: 125例
内視鏡下副鼻腔手術（乳頭腫，devi+con 同時手術も含む）	: 110例
鼻中隔矯正術・粘膜下鼻甲骨切除術単独	: 18例

鼓室形成術	： 18例
鼓膜形成術	： 3 例
顔面神経管開放術・内耳窓閉鎖術	： 3 例
耳下腺腫瘍切除術	： 31例
顎下腺摘出術	： 18例
甲状腺腫瘍摘出術	： 6 例
頸部腫瘍・嚢胞摘出術	： 15例
口腔・副鼻腔腫瘍摘出術	： 19例
喉頭直達鏡手術・食道直達鏡手術	： 78例
その他（気管切開・耳瘻孔・皮弁形成術など）	： 62例
<hr/>	
良性疾患合計	506例
<u>悪性疾患</u>	
頭頸部悪性腫瘍手術（遊離皮弁による再建あり）	： 19例
頭頸部悪性腫瘍手術（遊離皮弁による再建なし）	： 18例
頸部郭清術単独	： 9 例
甲状腺悪性腫瘍手術	： 11例
耳下腺悪性腫瘍手術	： 4 例
<hr/>	
悪性疾患合計	61例
総症例	567例

最近はかなり進行していて手術不可能症例も多く入院しています。緩和医療を含めた全人的な医療を提供できるよう今後も努力を重ねていきたいと思いをします。

鹿児島市立病院便り

高 木 実

いつも皆様お世話になっております。

皆様、いかがお過ごしでしょうか？

鹿児島市立病院に赴任して、約1年が経とうとしている高木です。

ここ市立病院はまるで戦場です。花牟禮將軍を筆頭に笠野大尉・直野准尉・高木伍長で戦っております。1週間の始まりは、朝7時40分から1週間分の術前カンファレンスを行い、手術法や追加検査等の意見など活発なディスカッションを行います。また月・水・金曜日は手術日・初診日です。そのため手術を行う者・外来を行う者（通常1人です）に分かれ、戦闘開始です。1人で外来を行う時には、初診患者は非常に多い時が多く、手術が早く終わることを期待していますが、その期待は無残にも打ち碎かれます。また2人で外来を行う時には初診患者が少ない時が多く、神様を恨みたくになります。でもみんな（耳鼻咽喉科医だけでなく外来スタッフも）神様からの試練と考え、頑張っております。また、手術も困難な症例や早期手術が必要な症例、文献では熟読したことはあっても今まで経験したことのない症例など、非常に勉強になる関連病院です。また火・木曜日は再診日ですが、名ばかりで、初診・再診日となっております。そのため、地獄の訓練日です。いつ終わるか誰にも予想がつかないため、火曜日外来終了後の回診は、患者の夕食中に行う事がほとんどです。また最近、月に1度木曜日に病理医とのカンファレンスを行い、手術の方法や術後治療の方針等の検討を行っています。2月から3月は橋口三等兵も加わり、大切な戦力でした。今後も、鹿児島の耳鼻咽喉科医療を背負ってくれるように説得を試みましたが、久留米大学形成外科への入局意思が強く、4月からは久留米大学へ行くことになっています。いずれここ鹿児島で、耳鼻咽喉科領域での形成外科技術を存分に発揮していくことでしょう。

また水曜日には、嘱託医である鹿島医師が小児難聴の診察等を行っており、最近では鹿児島の小児難聴の行く末を悩んでいるかのように見受けられます。

このように忙しい日々を送っていますが、外来・病棟スタッフ（若くてキレイな鬼軍曹）に助けられています。例えば、約1カ月に1度程度、病棟看護師との慰労会や誕生会もあり、その日はみんないそいそと仕事をこなし、楽しい時間を過ごします。また外来スタッフと、全国各地のお取り寄せ菓子（1万円のカステラ・花畑牧場の生キャラメル・土鍋のケーキ・出水のチーズ饅など）に舌鼓をうち、仕事の活力を蓄えています。皆様には色々とお迷惑をかけておりますが、今後とも鹿児島市立病院をお願いします。

藤元早鈴病院便り

森園 健介

皆様いかがお過ごしでしょうか。藤元早鈴病院に勤務させていただいております森園です。

去年は篤姫ブームでかなり鹿児島がクローズアップされたかと思いますが、実は都城と島津家の間に深い関連があったことは皆様ご存知だったでしょうか。

都城はその昔日向国島津庄という地名であり、源頼朝の命によりこの地を治めることになった地頭が島津を名乗るようになったのが、島津家発祥の由来のようです。その後島津家は薩摩国出水平野に拠点を移したようですが、島津宗家4代当主から別れた北郷(ほんごう)家の第2代北郷義久が再びこの地に移り住み、城を構えました。(ちなみに都島という場所に築城されたため、都之城と命名されたようです。そしてこれが現在の地名の由来になっています。)

その後北郷家は順調に領地を拡大していきましたが、豊臣秀吉の朝鮮出兵および太閤検地に関わるいざこざで祁答院に領地を移動させられてしまいます。ところが代わりに都城を治めることになった伊集院家が島津家に反乱を起こした際に、これを鎮圧するのに尽力した北郷家は晴れて都城に復帰することになったのです。

江戸時代になると北郷家は4万石弱の薩摩藩の私領領主として栄えたのですが、短命な当主が続いてしまったために島津家からの養子による家督相続が続き、北郷家嫡流の血筋は途絶えてしまいました。そして第17代忠長の時に島津藩主の命により島津姓に戻したため、これ以降は都城島津家と言われるようになりました。その後も脈々と血筋は受け継がれ、そして現在でも都城島津家28代当主、島津久厚氏が存命でいらっしゃいます。

以上長々と説明させていただきました。(多くはインターネットから参照させていただいていますが…。便利な世の中になったものですね。)さて、なぜ都城島津家の話をここまで引っ張ったのかというと、実はこの都城島津家の邸宅が藤元早鈴病院のすぐ近くにあるのです。これまでに都城島津家は所蔵していた史料約1万点を都城市に寄付しており、このたび都城市が都城島津邸の土地と建物を買い取って史料館として保存することになりました。現在は工事が始まっていて、周辺の整備が進んでいるところです。病院とアパートの間にうっそうとした竹林や歴史を感じさせる旧家があるなとは思っていましたが、長く住んでいてもまだまだ新しい発見があるようです。

ほぼ都城島津家便りになってしまいました。引き続き大学病院の先生方や、近隣の先生方にはご迷惑をおかけすることが多数あるかと思いますが、今後ともどうか宜しくお願いたします。

鹿児島生協病院たより 第四報

積山幸祐

生協病院では2006年6月から着工したりニューアル工事が2009年2月に終了しました。2007年9月に療養病床を19床開設し、226床から245床へ、2008年8月療養病床を21床増床し、245床から266床へ、さらには2009年2月回復期リハビリ病棟を40床開設、266床から306床の病院になりました。騒音に悩まされましたがやっと終わりました。一つの病院に長く勤めているとこのようなちょっとした病院の歴史を垣間見ることができます。生協病院勤務は当初1年間の予定でしたが、なんと5年目に突入しました。医局は、プレハブからお隣の谷山生協クリニックの建物に引っ越しました。二回目の引っ越しでした。さらにはそのお隣のマンションが壊され駐車場になるようです。駐車場不足も少しは解消されそうです。

病院勤務医として手術を中心にしたいのですが、一人でできることは限られており手術枠も、週2単位（火木の午前中のみ）でなかなか手術数は増えません。自分にできる仕事を確実にこなしていきたいと思います。最後に08年4月から09年3月までの手術室での手術症例を示します。昨年より微増しました。

2008年	例	唾石摘出術（口内法）	3
扁桃摘（アデノイド切除を含む）	60	口蓋腫瘍	1
UPPP	2	ESS（含POMC，鼻中隔矯正術）	24
顎下腺摘出術（含唾石）	5	鼻茸切除術	1
甲状腺切除術	3	鼻腔腫瘍摘出術	1
皮下腫瘍摘出術	2	眼窩壁骨折整復術	2
喉頭微細手術	11	顔面骨骨折整復術	1
気管切開術	2	鼻中隔矯正術＋粘膜下鼻甲介骨切除	2
粘液嚢胞摘出術	1	鼓室形成術	2
先天性耳瘻孔	4	鼓膜形成術	2
		合計	129

天辰病院便り

谷本 洋一郎

平成20年4月に天辰病院に赴任させていただいてから、1年近く経過いたしました。天辰病院は外科、胃腸科、眼科、耳鼻咽喉科よりなり、耳鼻咽喉科の外来診療のみ2件隣のあまたクリニックで行っております。個人病院に常勤で一人で勤務するのは初めてであったため、赴任当初から夏にかけては外来患者さんはそれほど多くありませんでしたが、秋ごろから冬にかけてこれほど多くのインフルエンザ患者、花粉症患者を診察するのは初めての経験でした。総合病院では紹介患者さんも多く、重症あるいは手術を必要とする患者さんが多いですが、個人病院はいろんな患者さんが受診されます。軽症から重症まで、また軽症と思って診察したら大変なことになっていたり、責任は感じますが面白くもあります。

また入院については大学に一番近い関連病院でもあり、多くは大学から御紹介いただいた患者さんですが、その他近くの開業医の先生方からも御紹介いただくこともあり、常に10人近くの患者さんがいらっしゃいます。突発性難聴、顔面神経麻痺などから頭頸部癌の放射線治療、化学療法また終末期の患者さんまでほんとに様々な患者さんがいらっしゃいます。昨年だけで数人の患者さんが当院で永眠され、短期間にこれだけ多くの担当患者さんの最期を看取ったのも初めての経験でした。

また、当院ではここ数年麻酔器の故障等もあり、眼科の局麻下手術のみで、全麻下手術は行われていませんでした。今回私が赴任させていただいてから、黒野教授、天辰理事長の御尽力で、ここ天辰病院でも全身麻酔下手術が出来る体制を整えていただきました。数年前までは全麻下手術されていたといっても、これだけ医療の現場が進歩する中で、新たなことをやっというとするのは想像以上に大変なことで、天辰理事長、樺山師長を始めとするスタッフの方々には本当に感謝しています。これまで当たり前のように行われており、自分が手術室や病棟では考えもしなかったことを一つずつ積み重ねていくことは自分自身も大変でしたがとてもいい経験になりました。麻酔については大学麻酔科の先生に依頼しており、どうしても手術は土曜日の午後に限られてしまいますので、まだ昨年10月25日に1例目の口蓋扁桃摘出術からまだ6例（扁摘4例、ESS2例）の手術しか出来ておりませんが、これから徐々に増やしていけたらと考えています。手術機械と自分の力不足もあり、現在のところ扁摘、アデノイド、ESSくらいしか出来ませんが、もし早めにやってもらいたいという症例がございましたら御紹介頂けると幸いです。今後、手術室の充実に伴い、私一人では困難な症例でも、大学等から応援をいただき当院の枠を使って手術が出来るような体制までもっていったらと考えています。

X. 関連病院

(平成21年4月現在)

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
国立病院機構 鹿児島医療センター	892-0853	鹿児島市城山町8-1 TEL:099-223-1151 FAX:099-226-9246	月・水・金 (8:30~11:00)	月・火・水 木・金
国立療養所星塚敬愛園	893-0041	鹿屋市星塚町4204 TEL:0994-49-2500 FAX:0994-49-2542	火・木 (8:30~17:00)	
県立大島病院	894-0015	奄美市名瀬真名津町18-1 TEL:0997-52-3611 FAX:0997-53-9017		
県民健康プラザ 鹿屋医療センター	893-0013	鹿屋市札元1-8-8 TEL:0994-42-5101 FAX:0994-44-3944		
鹿児島市立病院	892-8580	鹿児島市加治屋町20-17 TEL:099-224-2101 FAX:099-223-3190	新患 月・水・金 再診 火・木 (8:30~11:00)	月・水・金
済生会川内病院	895-0074	川内市原田町 2-46 TEL:0996-23-5221 FAX:0996-23-9797	(休診中)	
鹿児島生協病院	891-0141	鹿児島市谷山中央 5丁目20-20 TEL:099-267-1455 FAX:099-260-4783	月・火・木・金 (8:30~17:30) 水・土 (8:30~12:30) (新患は30分前まで)	火・水・木 の午前

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
今村病院分院	890-0064	鹿児島市鴨池新町11-23 TEL:099-251-2221 FAX:099-250-6181	火・土 (8:30~11:30)	
藤元早鈴病院	885-0055	都城市早鈴町17-1 TEL:0986-25-1212 FAX:0986-25-8941	月・水・木・金 (9:00~17:00) 火 (9:00~11:00)	火の午後
市比野記念病院	895-1203	薩摩郡樋脇町市比野3079 TEL:0996-38-1200 FAX:0996-38-0715	火・木 (14:00~18:00) 土 (9:00~18:00)	
あまたつクリニック	891-0175	鹿児島市桜ヶ丘4-1-6 TEL:099-264-5553 FAX:099-264-1771	月・木・金 (9:00~18:00) 火 (14:00~18:00) 土 (9:00~13:00)	火の午前
垂水中央病院	891-2124	垂水市錦江町1-140 TEL:0994-32-5211 FAX:0994-32-5722	火・木 (13:30~16:00) 土 (8:30~11:30)	
加治木温泉病院	899-5241	始良郡加治木町木田字 松原添4714 TEL:0995-62-0001 FAX:0995-62-3778	火・木 (8:30~11:30)	

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
田上病院	891-3198	西之表市西之表7463 TEL:09972-2-0960 FAX:09972-2-1313	火 (9:00~17:30) 水 夏(14:00~17:00) 冬(14:00~16:20)	
阿久根市民病院	899-1611	阿久根市赤瀬川4513 TEL:0996-73-1331 FAX:0996-73-3708	火・金 (8:30~15:30)	
指宿鮫島病院	891-0406	指宿市湯の浜1-11-29 TEL:0993-22-3079 FAX:0993-22-3019	月・火・木・金 (8:30~15:00) 土(8:30~12:00)	
栗生診療所	891-4409	熊毛郡屋久島町栗生1743 TEL:09974-8-2103 FAX:09974-8-2751	隔週木曜日 (8:00~15:30)	
豊永耳鼻咽喉科医院	868-0037	人吉市南泉田町120 TEL:0996-22-2031	火・木 (16:00~18:00) 土 (9:00~15:00)	
鹿児島厚生連病院	890-0061	鹿児島市天保山町22-25 TEL:099-252-2228 FAX:099-252-2736	火・金 (8:30~17:00)	
公立種子島病院	891-3701	熊毛郡南種子町 中之上1700-22 TEL:0997-26-1230	隔週木曜日 (8:30~16:00)	